

2 令和2年度事業の実績

(1) 学校・家庭・地域の協働による未来を担う人財の育成

- ア 地域学校協働活動の促進
- イ 地域が支えるキャリア教育の充実
- ウ 子どもの読書活動の充実
- エ 家庭教育支援の充実
- オ 青少年の体験活動の充実

県生涯学習課

社会教育を核とする地域ネットワーク活用促進事業 1,842千円

〔事業目的及び概要〕

様々な立場から社会教育活動を支援していく人財を育成し、地域の活性化を図るため、市町村の社会教育主事等が中心となり、首長部局、企業・民間団体等の地域ネットワークを活用した事業の企画・実践を支援するとともに、地元企業等と学校のネットワーク会議等を実施する事業である。

〔事業内容及び結果〕

(1) 地域課題の解決【2地区 主管：関係教育事務所】

社会教育主事が中心となり、首長部局、NPO団体、地域づくり団体等とともに、多面的な視点で、地域に関わる課題を解決したり、地域の良さを生かしたりするための事業を企画・実践した。

ア 東青地区(平内町)

<事業の企画①>

- 期日：6/23(火) ○会場：藤沢コミュニティセンター(平内町) ○参加者数：5名
- 内容：事業説明、委員顔合わせ

<事業の企画②>

- 期日：7/4(土) ○会場：藤沢コミュニティセンター(平内町) ○参加者数：14名
- 内容：企画事業に係る打合せ

<事業の実践①>

- 期日：7/23(木・祝) ○会場：藤沢コミュニティセンター(平内町) ○参加者数：9名
- 内容：地域コミュニティの強化に結びつく取組等についての勉強会

<事業の実践②>

- 期間：8月上旬～10月下旬(17回) ○会場：藤沢コミュニティセンター(平内町)
- 参加者数：延べ55名
- 内容：地域コミュニティの維持強化を図るための町内美化活動、憩いの場の拠点づくり(ロープ柵用杭打ち、碎石敷設作業、ピザ窯づくり等)

<事業の実践③>

- 期日：11/15(日) ○会場：藤沢コミュニティセンター(平内町) ○参加者数：23名
- 内容：世代間交流(ピザ窯完成報告、ピザ焼き体験)

イ 下北地区(佐井村)

<事業の企画①>

- 期日：6/11(木) ○会場：佐井村役場 ○参加者数：9名
- 内容：事業説明、委員顔合わせ、事業計画作成

<事業の企画②>

- 期日：11/4(水) ○会場：佐井村役場 ○参加者数：8名
- 内容：中間報告

<事業の企画③>

- 期日：1/25(月) ○会場：佐井村役場 ○参加者数：9名
- 内容：事業に関する報告

<事業の実践①>

- 期日：7/7(火)、11/27(金)、12/20(日)
- 会場：佐井小学校、津軽海峡文化館「アルサス」(佐井村)

- 参加者数：延べ 38 名
- 内容：子育て世代と地域をつなぐ交流会

<事業の実践②>

- 期日：12/20(日) ○会場：津軽海峡文化館「アルサス」(佐井村) ○参加者数：39 名
- 内容：親子で触れ合うお楽しみ会

(2) キャリア教育の推進【青森県教育支援プラットフォーム各地区実行委員会への事業委託】

ア 地元企業と学校のネットワーク会議の開催

- 内容：学校と企業等の関係者がお互いに「顔の見える関係」を築き、地域における未来をつくる人財像を共有するため、各地区においてネットワーク会議を開催し、学校が求める支援内容や企業ができる支援内容をマッチングすることを目的に、アドバイザーによるコーディネートのもと、意見・情報交換を行った。

※東青、西北、上北、下北、三八地区は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止。

<中南地区>

- 日時：9/9(水) ○場所：弘前プラザホテル ○参加者数：37 名
- 内容：講話・ワークショップ
- 講師：株式会社 BOLBOP カラーニングスペース HLS 弘前 代表取締役 辻 正太

イ 模擬授業等の開催

各地区実行委員会の教育支援活動推進員がコーディネートを行い、企業・NPO等が実施している教育支援活動(出前授業・インターンシップ・体験活動等)の具体的な取組を紹介するため、教職員や地域学校協働本部関係者等を対象とした、企業等による教育支援見本市や模擬授業等を行った。

<東青地区>

- ・企業による模擬授業等の開催
- 日時：9月上旬～1月中旬 ○場所：浦町中学校、浪打中学校、大野小学校
- 講師：警察・消防・スポーツインストラクター等
- ・教育支援見本市：新型コロナウイルス感染症の感染状況を踏まえ中止

<西北地区>

- ・出前授業
- 日時：9/1(火) 場所：金木中学校 講師：弘前大学人文社会科学部教授 李 永俊
- 日時：9/25(金) 場所：金木中学校 講師：観光アドバイザー 角田 周
- ・教育支援見本市：新型コロナウイルス感染症の感染状況を踏まえ中止

<中南地区>

- ・中南地区教育支援見本市
- 日時：10/2(金)～4(日) ○場所：弘前市ヒロロ ○参加者数：97 名 ○参加企業：9 社

<下北地区>

- ・出前授業「命を救う仕事のすばらしさ」
- 期間：7月～2月
- 開催校：十和田市立四和小・中学校、十和田市立三本木小学校、三沢市立岡三沢小学校、三沢市立おおぞら小学校、三沢市立木崎野小学校、三沢市立上久保小学校
- ・教育支援見本市：新型コロナウイルス感染症の感染状況を踏まえ中止

<下北地区>

- ・小学生対象の職業体験学習「ユメココ教室」
- 期間：7月～12月
- 開催校：むつ市立奥内小学校、むつ市立大畑小学校、むつ市立大平小学校、むつ市立第一田名部小学校、東通村立東通小学校
- ・教育支援見本市：新型コロナウイルス感染症の感染状況を踏まえ中止

<三八地区>

- ・コナチュウ 未来への架け橋講座～ふるさとで働くプロフェッショナル(仕事人)から学ぶ～
- 期間：1月～2月(全4回開催) ○場所：八戸市立小中野中学校
- ・教育支援見本市：新型コロナウイルス感染症の感染状況を踏まえ中止

[成果と課題]

「地域課題の解決」では、各地区実行委員会の社会教育主事等が多様な人財とともに、地域課題の解決や地域の活性化を図るための事業を企画・実践した。東青地区では、地域のシニア世代と若者世代の

つながりが希薄になりつつある実態を踏まえ、地域住民の集いの場であるコミュニティセンターを拠点にピザ窯づくりや町内美化活動、世代間交流に取り組んだ。下北地区では、若い世代の人口減少、少子高齢化における地域課題解決の一環として、子育て世代と地域をつなぐ交流・相談会、親子で触れ合うお楽しみ会を開催し、子育て経験者や児童委員と保護者をつなぎ、地域全体で子どもを育てるネットワークづくりを進めた。各地区の実践をとおして、社会教育主事等の資質向上が図られ、地域の多様な人財によるネットワークづくりが進んだ。また、本事業をきっかけとし、次年度以降も取組を継続し、地域課題の解決や地域の活性化を図ろうとする機運が醸成された。

今後も、多様な人財及び他部局や他市町村の人財・団体等と連携しながら、地域の活性化や地域の課題等を解決するための事業を企画・実践し、社会教育主事等の資質向上を図るとともに、持続的な組織運営に向けた支援を続けることが重要である。また、取組成果を域内の市町村へ波及させるため、各実行委員会の活動をロールモデルとして、各市町村教育委員会等へ情報提供する必要がある。

地元企業と学校のネットワーク会議については、6地区中5地区が新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から開催を中止し、開催した中南地区も参加定員を半分に減らして開催した。

模擬授業等については、各地区の状況に合わせて開催した。東青地区では小中学校における職業人講話、上北地区では小学校において「命を救う仕事のすばらしさ」についての講師派遣、下北地区では小学生対象職業体験学習「ユメココ教室」等が実施されるなど、地域の小学校と企業等と各地区実行委員会との連携・協力体制が各地域に根付き、構築された。

来年度も引き続き6地区実行委員会に委託して、事業を進めていくことにはなるが、現在「我が社は学校教育サポーター」に登録している企業は816社であるが、その活用については、全登録企業の2割程度に過ぎない。登録企業による教育支援活動を推進するために、支援内容も含め、改めて学校に周知を行う必要がある。

子どもの読書活動推進事業 2,184千円

【事業目的及び概要】

「青森県子ども読書活動推進計画(第四次)」に基づき、読書に親しみ自主的に読書活動をする子どもたちを育成するため、子どもが読書に親しむ機会の充実、環境の整備・充実、理解と関心の普及・啓発を進める取組を展開する事業である。

【事業内容及び結果】

(1)あおもりの中学生・高校生による『大切なあなたへ薦める青春の一冊』

中学生・高校生の読書意欲の向上を図り、自主的な読書活動を促すため、県内の中学生・高校生を対象に仲間や友だちなどに薦めたい一冊の本の紹介文を募集し、優秀作品を表彰した。

また、優秀作品集(紹介文集)を73,000部、優秀作品周知ポスターを420部作成し、中学校、高等学校(特別支援学校中等部及び高等部を含む)、図書館等に配布した。

○募集期間：7/1(水)～9/18(金)

○応募数：5,072点(中学生の部：29校1,501点、高校生の部：27校3,571点)

○優秀作品受賞者一覧

<中学生の部>

最優秀賞	八戸市立江陽中学校3年 上田 夏希 「線は、僕を描く」(砥上 裕将/著)
優 秀 賞	青森市立南中学校3年 西崎 楓 「カラフル」(森 絵都/著) 外ヶ浜町立三厩中学校1年 東 璃咲 「ハリネズミの願い」(トーン・テレヘン/著 長山 さき/訳) 深浦町立大戸瀬中学校3年 堀内 美緒 「西の魔女が死んだ」(梨木 香歩/著) 弘前市立北辰中学校2年 石郷岡 琴音 「トラペジウム」(高山 一実/著) 八戸聖ウルスラ学院中学校3年 朝 望美 「新版 生きるヒント2 今日を生きるための12のレッスン」(五木 寛之/著)

<高校生の部>

最優秀賞	県立三本木農業高等学校2年 巴 香乃 「老人と海」(ヘミングウェイ/著 高見 浩/訳)
優 秀 賞	県立青森高等学校1年 櫻田 藍 「罪と罰」(ドストエフスキー/著 工藤 精一郎/訳) 県立北斗高等学校3年 木津 怜巳 「蜘蛛の糸・杜子春」(芥川 龍之介/著)

県立青森豊学校 高等部2年 三上 真輝 「ケーキの切れない非行少年たち」(宮口 幸治/著) 県立八戸商業高等学校1年 清水 怜奈 「怠けてるのではなく、充電中です。昨日も今日も無気力なあなたのための心の充電法」(ダンシングスネイル/著 生田 美保/訳) 千葉学園高等学校3年 加藤 夏望 「博士の愛した数式」(小川 洋子/著)

(2) 子どもの読書活動推進大会

広く県民が子どもの自主的な読書活動の意義や重要性について理解と関心を深め、家庭・地域・学校を通じた社会全体で子どもの読書活動を推進する機運の醸成を図るため、子どもの読書活動推進大会を開催した。

○日時：12/12(土) 13:00～16:00 ○場所：県総合社会教育センター ○参加者数：80名

○内容

- ・講演「本にふれることの喜び」 講師 作家 武田 綾乃
 ※高校生4名とのトークセッション
- ・令和2年度「あおもりの中学生・高校生による『大切なあなたへ薦める青春の一冊』表彰式
- ・「私のお薦めの一冊」
 令和2年度「あおもりの中学生・高校生による『大切なあなたへ薦める青春の一冊』中学生及び高校生の部の最優秀賞及び優秀賞受賞者による本の紹介(6名の発表)

(3) 青森県子ども読書活動推進計画

青森県子ども読書活動推進計画(第四次)概要版を10,000部作成し、関係機関に配布するとともに、ホームページに掲載した。

【成果と課題】

「あおもりの中学生・高校生による『大切なあなたへ薦める青春の一冊』」は、応募する学校で校内審査を行い、出品点数を各校30点以内とした。学校の担当教師からは「応募することで、読書について改めて考える機会を生徒に持たせることができている」との感想をいただいた。優秀作品集については、公立図書館や書店商業組合と連携し、特設コーナーを設置してもらうなど、その活用に取り組んでいるが、中学生・高校生の読書意欲向上につなげるため、今後もあらゆる機会を通して広く周知する必要がある。

子どもの読書活動推進大会では、講演講師と高校生とのトークセッション形式で講演を行った。参加者からは、「コロナ禍で行動範囲が限られる今こそ、読書が大切だと思った」との意見をいただいた。

また、「あおもりの中学生・高校生による『大切なあなたへ薦める青春の一冊』コンクールの表彰式と最優秀賞及び優秀賞を受賞した生徒による本の紹介を行い、子どもの読書活動推進に係る関係者に本事業の一環である取組を周知した。

今後も「青森県子ども読書活動推進計画(第四次)」で示している本県の課題(不読率の改善等)に対応した取組を進めていく必要がある。

いじめ防止キャンペーン推進事業 7,441千円

【事業目的及び概要】

いじめ問題への理解と認識を深めるため、いじめ防止を内容とした標語を募集し、その優秀賞作品をテレビを通じて視聴者へ語りかけることにより、広く県民のいじめ防止に向けた意識の啓発を行う事業である。

【事業内容及び結果】

(1) いじめ防止標語コンクール

小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校に在籍する児童生徒並びに一般県民から、いじめ防止を訴える標語を募集し、優秀賞6作品、審査員特別賞3作品を選定、表彰した。

○募集期間：6/8(月)～8/31(月)

○応募数：10,346作品(小学校6,866作品、中学校2,993作品、高等学校386作品、特別支援学校98作品、一般3作品)

○受賞作品

優秀賞	ぼくたちは ほっとかないよ なかまだもん 気づこうよ 助け求める 心の声	青森市立沖館小学校5年 太田 真尋 五所川原市立五所川原第三中学校 1年 古川 蓮
-----	---	---

	えがお100 やさしさ100で いじめ0 寄り添いは 閉ざした扉を 開くカギ 手を止めて 送信前に 考えよう 言葉遣い 少しかえれば みな笑顔	弘前市立岩木小学校 1年 加藤 壮真 三沢市立岡三沢小学校 6年 大久保 琥太 むつ市立川内中学校 3年 鈴木 虹花 県立八戸中央高等学校 1年 佐藤 瑠星
審査員 特別賞	いじめだと 気づいた時こそ 変えられる つくろうよ みんなの個性を 認める輪 ことばはね ぼくとあなたを つなぐもの	県立鶴田高等学校 1年 西村 安莉 弘前市立第二中学校 2年 三上 佳志乃 県立むつ養護学校 高等部 1年 四ツ谷 空翔

(2) テレビCMの制作・放送

ア 令和元年度制作「いじめ防止キャンペーンテレビCM」を県内民放3局で放送(4/6~4/7、5/7~5/11、8/21~9/2、1/14~1/20)。

イ 令和2年度いじめ防止標語コンクール優秀賞作品を活用したテレビCMを制作し、県内民放3局で放送(3/24~3/26)。

【成果と課題】

いじめ防止標語コンクールでは、学校からの標語の応募数が年々増加しており、各学校において応募した標語を教育活動等にも活用していることから、学校におけるいじめ防止に向けた意識啓発につながる取組となっている。また、CM放送では、取組を周知することにより、いじめ防止に向けた県民の意識の高揚につなげることができた。

今後も、標語コンクールを実施し、優秀賞作品を原案としてメッセージ性の高いCMを制作することで、子どもたちをはじめ広く県民のいじめ防止に向けた意識の啓発を図っていく。

特別支援学校における家庭教育支援事業 468千円

【事業目的及び概要】

障害のある児童生徒の保護者等が、子どもの健やかな成長のために、障害のある児童生徒の心理や行動について理解を深め、家庭における教育や卒業後の就労などについて必要な知識を習得するとともに、同じ悩みを持つ保護者同士の交流や地域住民との交流を深める機会を提供する事業である。

【事業内容及び結果】

開設校	回数	時間	参加者数	主な内容
青森第一養護学校	3	8	34名	パン作り教室、保護者施設見学、講話(摂食について)
青森第二養護学校	3	8	26名	こぎん刺し教室、救命救急法
青森若葉養護学校	2	4	24名	施設見学、陶芸・絵付け
青森第一高等養護学校	1	1	10名	福祉に関する勉強会
青森第二高等養護学校	1	3	9名	木製のカトラリー作り
県立盲学校	4	9	41名	学校祭参加、進路講話聴講、点字ブロック理解啓発活動、主権者教育研修会
青森聾学校	1	1.5	6名	コサージュ作り
浪岡養護学校	3	5	43名	生け花教室、調理活動
弘前第一養護学校	1	3	15名	アロマオイルを使用したマッサージ体験
弘前第二養護学校	2	5	26名	学校祭鑑賞、クリスマス会参加
弘前聾学校	3	4	36名	なかまの集い、進路懇話会、ハーバリウム作り
八戸第二養護学校	1	1	3名	進路学習会
八戸盲学校	3	6	17名	装飾作り、親子体験学習(もの作り、伝承文化活動)、進路学習会
八戸聾学校	3	5	46名	130周年記念式典装飾・清掃、手話学習
森田養護学校	1	5	10名	文化活動への参加(学校祭記念品の準備)
黒石養護学校	1	2	7名	コサージュ作り
七戸養護学校	1	2	21名	進路学習会
むつ養護学校	3	10	55名	園芸教室、父母学習会(進路について)

八戸高等支援学校	2	7	53名	進路学習会、研修(施設見学)
合計	延べ回数 39回 延べ時間 89.5時間 参加者数合計 482名			

【成果と課題】

同じ立場の保護者同士が、家庭教育学級の様々な活動を通して交流を深め、情報共有や情報交換をする機会となっている。また、子どもの進路や就労、卒業までに身につけさせておきたい力などについて、先輩の保護者のアドバイスを受け、学べる好機となっている。

今年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、計画どおりに事業を実施できない学校が多かった。今後は、実施方法について各学校と相談・確認しながら、事業を実施できるように進めていく必要がある。

学校を核とした地域づくり推進事業 833千円

【事業目的及び概要】

地域学校協働本部の設置をこれまで以上に推進するために、多様な形態による地域学校協働本部のモデルを設置し、地域学校協働本部の普及を図るとともに、地域学校協働活動の理解及び更なる啓発を進める事業である。

【事業内容及び結果】

(1) 地域学校協働本部構築モデル事業(県内4市町村)

県内で設置例がない形態、または事例が限られている形態の地域学校協働本部を設置し、これまでの学校支援活動にとどまらず、学校が地域の核となり、地域学校協働本部が地域との連携・協働を進めながら、地域課題の解決に取り組む活動を行う。

○地域学校協働本部構築モデル事業進捗状況

市町村	本部設置形態	本部設置時期
黒石市	公民館に本部を設置	R3.9月(予定)
平内町	コミュニティ・スクールを導入している市町村に本部を設置	R3.3月
鶴田町	中学校区に本部を設置	R3.3月
風間浦村	中学校区に本部を設置	R3.3月

(2) 地域と学校とのコラボレーション研修【主管：各教育事務所】

地域学校協働活動に係る知識と理解を深めるとともに、地域と学校をつなぐために必要なコーディネートの在り方及び学校・地域双方に求められる役割について学ぶための研修会を4地区(うち1地区はオンライン)で行った。2地区は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から中止した。

地区	期日	場所	参加者数	備考
西北	12/1(火)	五所川原市中央公民館	44名	
上北	11/10(火)	六戸町文化ホール	47名	
下北	12/8(火)	むつ来さまい館	32名	オンラインで実施
三八	11/16(月)	八戸市総合保健センター	94名	

※東青・中南地区は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、研修会を中止した。

○講師

西北地区 特定非営利活動法人まなびのたねネットワーク 代表理事 伊勢 みゆき

上北・三八地区 岩手県大槌町教育委員会地域コーディネーター及び教育専門官

岩手県立大槌高等学校 カリキュラム開発等専門家 菅野 祐太

下北地区 一般社団法人みたかSCサポートネット 代表理事 四柳 千夏子

(3) 地域との連携を担う教職員研修【主管：生涯学習課】

地域との連携・協働の必要性や地域連携を担う教員としての校内での役割や留意点について、県内6地区で研修を行う予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から中止した。

【成果と課題】

地域学校協働本部構築モデル事業では、県内で設置例がない形態、または事例が限られている形態の地域学校協働本部の設置に向け、モデルとなる4市町村に対し地域学校協働本部設置のノウハウや課題解決に向けた指導・助言を行った。また、モデル市町村以外についても、地域学校協働本部設置に関する指導・助言を行い、本部設置の推進を図ることができた。

地域学校協働活動及び地域学校協働本部設置を推進するための研修会は、県内6地区において2つの研修会を開催する予定であったが、「地域との連携を担う教職員研修」では6地区全て、また「地域と

学校のコラボレーション研修」では2地区を新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から中止とした。「地域と学校のコラボレーション研修」を実施できた4地区においては、地域と学校をつなぐために必要なコーディネート の在り方や学校・地域双方に求められる役割について関係者のスキルアップを図ることができた。

今後は、地域学校協働本部未設置の市町村に対してモデル市町村の実践例を示すなどしながら、本部設置について更なる推進を図る。また、感染症対策やオンラインを活用した研修の持ち方など、コロナ禍における研修の在り方について検討・工夫をしていく必要がある。

地域学校協働活動推進事業(県事業) 1,805千円

〔事業目的及び概要〕

地域全体で未来を担う子どもたちの成長を支え、地域を創生する地域学校協働活動を推進することを目的として、より多くの地域住民等の参画による多様な活動を継続的・安定的に実施する体制づくりを支援する事業である。

〔事業内容及び結果〕

(1) 会議の開催

県内における地域学校協働活動及び放課後子ども総合プランの総合的な推進を図るため、地域学校協働活動の総合的な在り方の検討を行うとともに、全児童の放課後対策の諸問題について協議した。

ア 地域学校協働活動推進委員会

- ・日時：12/21(月)13:30～15:45
- ・場所：県庁南棟5階教育委員会室
- ・委員

No.	氏名	所属等	備考
1	深作 拓郎	弘前大学教育学部 講師	委員長
2	成田 達哉	青森市立浜館小学校 校長	
3	山内 亮悦	六戸町立六戸小学校 校長	
4	富樫 克輝	八戸市立江陽中学校 校長	
5	外崎 浩司	青森県PTA連合会 会長	
6	大水 俊江	平内町立東小学校 放課後子ども教室コーディネーター	
7	沢田 真由美	鶴田町立鶴田小学校 放課後子ども教室コーディネーター	
8	工藤 知久子	青森市立浦町中学校 CSディレクター	
9	村上 直嗣	黒石市教育委員会社会教育課 主幹・地域支援係長兼主任社会教育主事	
10	高島 慎吾	むつ市教育委員会生涯学習課 主任	
11	能渡 春実	風間浦村教育委員会教育課 主幹	
12	奈良 英文	青森市福祉部子育て支援課 課長	
13	川口 文子	根城仲よしクラブ 代表支援員	
14	一戸 裕見子	常盤小学校学童クラブ クラブ長	

イ 放課後子ども総合プラン市町村担当者連絡会議

- ・日時：11/9(月)13:30～15:30
- ・場所：県総合社会教育センター 第1研修室
- ・参加者：市町村放課後子ども総合プラン担当者(社会教育主管課及び福祉部局)
※新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、開催を中止し、後日資料提供を行った。

(2) 研修の実施

ア 地域学校協働活動推進のための研修【主管：県総合社会教育センター】

地域学校協働活動の推進に向けて、地域と学校が協働する仕組みづくりに関わる市町村教育委員会担当者や地域学校協働活動推進員等の資質向上を図った。

- ・参加人数：44名
- ・内容等

日時及び会場：7/28(火)10:30～15:00 県総合社会教育センター

対象：地域学校協働活動推進員、放課後子ども教室コーディネーター及び地域学校協働活動本部

のコーディネーター等(以下、地域学校協働活動推進員等)、市町村教育委員会担当者
 内容：講義・演習「地域と学校の連携・協働の推進～コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進～」(オンラインによる実施)

講師 岐阜県大野郡白川村教育委員会事務局 社会教育主事 新谷 さゆり

イ 放課後子ども総合プラン指導員等研修会【主管：各教育事務所】

放課後対策等に関わる地域人財を対象に、学習・体験活動等の企画・実施方策、安全管理方策等の資質向上を図るための講義や、他の事業関係者等との情報交換・情報共有を図るため、合同の研修会を開催した。

・参加人数：計 487 名

・対象：地域学校協働活動推進員等、協働活動支援員、協働活動サポーター、特別支援・共生社会サポーター、放課後児童指導員等

東青	前期	【開催日】 9/15(火)、16(水) 【会場】 県総合社会教育センター 【参加人数】 63 名 【内容】 講義「子どもたちの科学する心を育てるものづくり」 理科教育コンサルタント 井上 貫之
	後期	【開催日】 12/8(火) 【会場】 県総合社会教育センター 【参加人数】 101 名 【内容】 講義「心地よい子どもたちの居場所づくりのために」 ～放課後子ども総合プランの意義と指導員の役割について～ 弘前大学教育学部 兼 地域創生本部 講師 深作 拓郎
西北	前期	中止
	後期	【開催日】 10/ 2(金) 【会場】 つがる市柏ふるさと交流センター 【参加人数】 45 名 【内容】 講義・演習「保護者や子どもとつながるためのコミュニケーション」 青森明の星短期大学 非常勤講師 長尾 慶子
中南	前期	中止
	後期	【開催日】 9/8(火) 【会場】 弘前市民文化交流館ホール 【参加人数】 43 名 【内容】 講義「放課後子ども総合プランの概要」、「あおもり親楽プログラム紹介」 青森県教育庁生涯学習課 職員 児童クラブ見学(大成なかよし会)
上北	前期	中止
	後期	【開催日】 10/9(金) 【会場】 七戸町屋内スポーツセンター 【参加人数】 102 名 【内容】 実技研修「遊びのマスターから学ぼう～新しい生活様式に配慮した遊び講座～」 NPO法人子どもネットワーク・すてっぷ 代表理事 奈良 陽子
下北	前期	中止
	後期	【開催日】 10/14(水) 【会場】 むつ市中央公民館 【参加人数】 89 名 【内容】 講義「愛着障害の理解と対応」 八戸市こども支援センター 臨床心理士 高橋 育子
三八	前期	中止
	後期	【開催日】 10/ 1(木) 【会場】 八戸市福祉公民館 【参加人数】 44 名 【内容】 講義・演習「すぐに使える“なかよし遊び” ～子どもたちの豊かな表現や育ちのために～」 青森県レクリエーション協会 副会長 高橋 昌樹

・対象：地域学校協働活動推進員等、協働活動支援員、協働活動サポーター、特別支援・共生社会サポーター、放課後児童指導員等

ウ 地域学校協働活動コーディネーターアドバイザーの配置

県に地域学校協働活動に係るコーディネーターアドバイザーを配置し、市町村教育委員会との連絡調整、地域学校協働活動の理解促進等を行う。

[成果と課題]

新型コロナウイルス感染症の感染拡大の状況を考慮し、会議及び研修開催の中止・延期、参加者数の制限、実施方法の見直し等を余儀なくされたが、研修には年間計 500 名を超える参加があった。

研修の実施にあたっては、受付時の検温、手指の消毒、講義時のマスク着用、換気、座席指定、グループ演習の縮小、スマートフォンを活用した意見交流等、例年とは異なる様々な工夫を凝らしながら開催された。コロナ禍において学びの機会を求める参加者に向けて、時宜を得たテーマ設定・実施内容とすることにより、参加者アンケートも満足度の高い結果となった。地域学校協働活動推進員や指導員等からのニーズも高く、その資質向上に資する研修として、継続が期待されている。

国の新・放課後子ども総合プランの推進に向け、引き続き健康福祉部と連携しながら、市町村において円滑な取組促進が図られるよう支援していく必要がある。

放課後子ども教室推進事業費補助 41,368 千円

[事業目的及び概要]

子どもたちが地域社会の中で、心豊かで健やかに育まれる環境づくりを推進することを目的として、放課後の子どもたちの安全・安心な居場所を設け、スポーツ・文化活動等の体験活動、地域住民との交流活動等の取組を実施する市町村に対し、県が補助をする事業である。

[事業内容及び結果]

放課後子ども教室の取組を行う市町村(中核市の青森市及び八戸市を除く)に補助金を交付する。【国庫補助 1/3、県補助 1/3、市町村負担 1/3】

17 市町村 66 教室

平内町 今別町 外ヶ浜町 鶴田町 中泊町 弘前市 平川市 大鰐町 十和田市 六戸町

東北町 おいらせ町 むつ市 風間浦村 佐井村 三戸町 五戸町

[成果と課題]

放課後子ども教室は、中核市の青森市及び八戸市、中泊町(一部)、藤崎町、七戸町、横浜町、大間町、階上町において単独費で実施している教室を含めると 24 市町村 124 教室が開設され、地域の特性を生かしたスポーツ・文化活動等の体験活動、地域住民との交流等が実施されている。引き続き、市町村での円滑な取組促進が図られるよう、経費の一部を補助し、支援していく必要がある。

地域学校協働活動推進事業費補助 5,424 千円

[事業目的及び概要]

幅広い地域住民等の参画により、地域と学校が連携・協働しながら地域全体で子どもの成長を支え、地域を創生する活動(地域学校協働活動)を推進することを目的として、地域学校協働活動に取り組む市町村に対し、また、子どもたちの土曜日等の教育活動を充実することを目的として、民間団体等の多様な経験や技能を持つ外部人材等の参画により、特色・魅力のある教育プログラムを実施する「外部人材を活用した教育支援活動」の取組を実施する市町村に対し、県が補助をする事業である。

[事業内容及び結果]

地域学校協働活動及び外部人材を活用した教育支援活動の取組を行う市町村(中核市の青森市及び八戸市を除く)に補助金を交付する。【国庫補助 1/3、県補助 1/3、市町村負担 1/3】

10 市町 30 本部(小学校 34 校、中学校 15 校)

平内町 今別町 五所川原市 鱒ヶ沢町 鶴田町 中泊町 弘前市 平川市 三沢市 五戸町

[成果と課題]

市町村においては、地域学校協働本部及び地域の実情に応じた仕組みの下で、地域の方々の参画を得て、多様な活動が展開されている。

引き続き、市町村での地域学校協働活動の取組促進が図られるよう、経費の一部を補助し、支援していく必要がある。

あおもり家庭教育支援総合事業 2,791 千円

[事業目的及び概要]

社会や家庭を取り巻く状況の変化に伴い、家庭教育が一層困難になっていることを踏まえ、全ての親が安心して家庭教育を行うために、今日的課題に対応した家庭教育の取組を推進するための協議を行い、地域全体で家庭教育を支援していく気運を高めるとともに、親の育ちを応援する学びの機会の充実や支

援のネットワークづくり等を行う事業である。

【事業内容及び結果】

(1)青森県家庭教育支援推進協議会の開催

今日的課題に対応した家庭教育の取組を推進するため、本県の家庭教育支援事業及び家庭教育学習テキスト「あおり親楽プログラム1」の改訂について協議した。

○委員：10名

○回数：年3回

(2)家庭教育学習テキスト「あおり親楽プログラム」の作成

家庭教育の学習を推進するため、「あおり家庭教育アドバイザー」が活用する家庭教育の学習テキストを改訂した。

○「改訂版 あおり親楽プログラム1～乳幼児・小学生編～」の作成 1,800部

(3)親の学びを支援する「あおり家庭教育アドバイザー」の派遣(主管：県総合社会教育センター)

地域における家庭教育支援の活性化を図るため、「あおり家庭教育アドバイザー」を団体からの要請に応じて派遣した。

実施日	実施機関	研修会等の名称 (参加者数)	学習プログラム	派遣 アドバイザー
12/6 (日)	公益社団法人 八戸青年会議所	次年度青少年育成委 員会勉強会 (11名)	「わが子がイキイキしてる！～ 体験活動のススメ～」 (乳幼児・小学生編)	小宮 香

(4)読み聞かせの大切さを伝える「親子ふれあい読書アドバイザー」の養成

県読書団体連絡協議会への委託により、読み聞かせの効果や家庭での読み聞かせの大切さを伝える「親子ふれあい読書アドバイザー」の養成と、読み聞かせ実践者のスキルアップを図る研修会を県内5地区で開催し、合計204名が受講した。そのうち、「親子ふれあい読書アドバイザー」を新たに12名養成、登録した。(累計登録者数：493名)

地区	内 容
西北	【期日】10/3(土)【会場】つがる市旧制木造中学校講堂【参加者数】40名 【内容】○親子ふれあい読書アドバイザー研修 講師：J P I C読書アドバイザー 高嶋 敬子 ○読み聞かせ研修会 講師：つがる市読書推進連絡会ろばたの会 代表 蝦名 桂子
中南	【期日】10/15(木)【会場】平川市生涯学習センター【参加者数】45名【新規登録者数】2名 【内容】○親子ふれあい読書アドバイザー研修 講師：親子ふれあい読書アドバイザー 千葉 敦子 ○読み聞かせ研修会 講師：絵本セラピスト 長谷川 育子
上北	【期日】9/13(日)【会場】十和田市民図書館【参加者数】35名【新規登録者数】6名 【内容】○親子ふれあい読書アドバイザー研修 講師：語りの会「こま草」代表 阿部 智留恵 他6名 ○読み聞かせ研修会 講師：語りの会「こま草」代表 阿部 智留恵 他6名
下北	【期日】12/6(日)【会場】むつ市立図書館【参加者数】9名【新規登録者数】1名 【内容】○親子ふれあい読書アドバイザー研修 講師：親子ふれあい読書アドバイザー 越膳 昌子 ○読み聞かせ研修会 講師：親子ふれあい読書アドバイザー 越膳 昌子
三八	【期日】10/15(木)【会場】YSアリーナ八戸【参加者数】75名【新規登録者数】3名 【内容】○親子ふれあい読書アドバイザー研修 講師：J P I C読書アドバイザー 前田 敏子 絵本専門士 高橋 智子 ○読み聞かせ研修会 講師：八戸ブックセンター企画運営専門員 森 花子

※東青地区は新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、研修会を中止した。

(5) あおもり家庭教育応援フェスタの開催

地域が一体となって子どもたちを育むことについて学びを深める講演会、あおもり家庭教育アドバイザーによる「あおもり親楽プログラム」を活用した特別講座及び様々な家庭教育支援に関する情報提供を行うことにより、家庭教育についての理解と認識を深め、地域全体で家庭教育を支援する意義や必要性についての普及・啓発を行った。

○期日：11/1(日)

○場所：青森中央学院大学

○参加者数：100名

○内容

ア 講演「子育てハッピーアドバイス～地域ぐるみで家庭教育を支えよう～」

講師 真生会富山病院心療内科部長 明橋 大二

イ 特別講座「地域のチカラで子どもを育てる！～体験しよう！『あおもり親楽プログラム』～」

講師 あおもり家庭教育アドバイザー 工藤 貴子

真生会富山病院心療内科部長 明橋 大二

ウ パネル展示

展示団体 青森市家庭教育サポーター連絡会 今別町家庭教育支援チーム

しるくはあと(おいらせ町)

八戸市城北家庭教育支援チーム

県総合社会教育センター

県教育庁生涯学習課

(6) 祖父母向け孫育て研修会の開催

県地域婦人団体連合会への委託により、家庭教育をサポートする祖父母を対象として、祖父母が読み聞かせるのに適したおすすめ絵本の紹介や絵本の選び方、絵本を通じた孫との交流や絵本の読み聞かせ方等を学ぶ研修会を実施した。

地区	期日	場所	参加者数	内容
東青	9/17(木)	平内町勤労青少年ホーム	86名	講演：「家族の絆を深める読み聞かせ」 講師：青森大学社会学部 教授 秋田 敏博
下北	10/7(水)	風間浦村易国間社会体育館	36名	

(7) 青森県家庭教育支援ネットワーク形成研修会の開催

社会全体で家庭教育を支援するため、家庭教育支援に関わる方々が一堂に会し、家庭教育の今日的な課題等について学習するとともに、家庭教育支援関係者等と市町村職員のネットワークを広げた。

○期日：1/8(金)

○場所：県総合社会教育センター

○参加者数：35名

○内容

ア 講義：「地域ぐるみで子どもを育てるために～子どもの居場所づくりの実践から～」

(オンラインによる実施)

講師：日本冒険遊び場づくり協会 地域運営委員

名古屋市緑児童館 館長 塚本 岳

イ 事例発表

発表者：今別町家庭教育支援チームTAZUNA

(8) 家庭を支える連携・協働セミナーの開催

家庭教育支援に携わる方が、予防的・早期対応型の家庭教育支援の体制構築の必要性、家庭教育の今日的な課題等について学習するとともに、互いのネットワークを広げる研修会を年2回開催し、地域における家庭教育支援の充実を図った。

回・期日	場所	参加者数	内容
第1回 7/31(金)	青森県武道館	55名	講義：「なぜいま『連携・協働』なのか？ ～地域ぐるみで家庭教育を支えるために～」 講師：青森中央短期大学幼児保育学科 准教授 松浦 淳
第2回 11/18(水)	弘前市立中央公民館 相馬館 長慶閣	22名	講義：「家庭教育支援チームが持つ可能性 ～地域ぐるみで家庭教育を支えるために～」

			講師：青森中央短期大学幼児保育学科 准教授 松浦 淳 事例発表：「紹介します、県内家庭教育支援チームの 実践！」 発表者：青森市家庭教育サポーター連絡会 代表 沼田 久美 八戸市城北家庭教育支援チーム アドバイザー 中村 和貴子 サポーター 七條 いつ子
--	--	--	---

〔成果と課題〕

家庭教育の今日的課題に対応するため、「あおり親楽プログラム 1 乳幼児・小学生編」を改訂し、県内幼稚園、保育所、こども園、小学校等に配付した。「あおり親楽プログラム」について、市町村教育委員会や各学校のPTA研修会等での活用促進に向けて周知を工夫するとともに、「あおり家庭教育アドバイザー」の活用を促す手立てを講じる必要がある。

「あおり家庭教育応援フェスタ」については、家庭教育の重要性等を多くの県民に啓発することができた。実施時期や周知手段、実施方法、会場の選定等を検討しながら、より広く啓発活動を進められるよう工夫する必要がある。

「青森県家庭教育支援ネットワーク形成研修会」では、家庭教育支援関係者の他、行政職員、幼稚園・保育所職員、教員等、家庭教育支援に関わる様々な立場の方が参加し、家庭教育の今日的な課題について研修を深めた。

「家庭を支える連携・協働セミナー」では、今年度は中南地区において、予防的・早期対応型の家庭教育支援の体制構築の必要性等を学習する場を設け、地域における家庭教育支援の充実を図った。今後は中南地区以外においても、関係機関との連携の仕組みづくり等について学習する場を設定し、予防的・早期対応型の家庭教育支援を県域に広げていく必要がある。

県総合社会教育センター

大学生とカタル！キャリア形成サポート事業 873 千円

〔事業目的及び概要〕

規定の研修を修了した大学生が自身の体験談や生徒と直接対話するワークショッププログラムを企画・運営し、中学生・高校生には、今と将来の自分について考え、向き合う機会とすることで、互いに自らの夢や目標に向かう主体性が育まれるよう促し、キャリア形成を図る。

〔事業内容及び結果〕

- (1) ワークショップ「キャリアサポ」（高校企画）、「Jr. キャリアサポ」（中学校企画）の実施
- ア 実施高等学校、中学校数 13 校(高等学校 12 校、中学校 1 校)
- イ 参加生徒数 高校生 1,099 名、中学生 63 名
- ウ 延べ参加大学生数 355 名

No.	期日	実施校	対象中学生・対象高校生	参加大学生
1	8/22(土)	県立鶴田高等学校	全学年 (4 クラス 74 名)	23 名
2	8/24(月)	県立田子高等学校	2 学年 (1 クラス 9 名)	8 名
3	8/24(月)	県立三戸高等学校	2 学年 (2 クラス 49 名)	15 名
4	8/27(木)	三戸町立三戸中学校	8 学年 ※2 学年(2 クラス 68 名)	22 名
5	8/31(月)	県立黒石高等学校	1 学年 (5 クラス 198 名)	39 名
6	9/ 4(金)	県立大間高等学校	1・2 学年(4 クラス 77 名)	20 名
7	9/ 8(火)	県立田名部高等学校	1 学年 (5 クラス 191 名)	45 名
8	9/ 9(水)	県立金木高等学校	1 学年 (1 クラス 17 名)	11 名
9	9/ 9(水)	県立百石高等学校	1 学年 (3 クラス 121 名)	28 名
10	11/21(土)	県立北斗高等学校	中間年次(11 クラス 111 名)	34 名
11	3/ 3(水)	県立七戸高等学校 ※オンライン実施	1 学年 (3 クラス 105 名)	40 名
12	3/ 8(月)	八戸工業大学第二高等学校	1 学年 (6 クラス 151 名)	50 名

13	3/15(月)	県立浪岡高等学校 ※オンライン実施	1 学年 (1 クラス 29 名)	20 名
※新型コロナウイルス感染症拡大防止対策に伴う中止 東奥義塾高等学校、県立中里高等学校、県立青森西高等学校、県立青森商業高等学校、 県立弘前南高等学校、県立青森中央高等学校				

(2) オンラインワークショップの実施

- ア オンライン企画 9/ 6(日)参加高校生 5 名、参加大学生 34 名
 ※高校生はオンラインで参加、大学生は会場に集合
- イ オンライン企画 part2 11/28(土)参加高校生 5 名、参加大学生 54 名
 ※全員がオンラインで参加

(3) キャリア形成の支援

- ア 大学生会議 (4/19(日)※オンライン実施、7/12(日)、12/13(日)、3/12(金)) 4 回
- イ 進路指導関係者研修会(11/20(金)) 参加者 17 校 22 名(高校生スキルアッププログラムと共催)
 講 演 「ローカルキャリアと地域連携による次世代育成を考える」
 講師 岩手県釜石市総務企画部オープンシティ推進室長 石井 重成
 事例紹介 発表者 県立田子高等学校 教 諭 大崎 徳美
 発表者 県立田名部高等学校 臨時講師 土岐 美里
- ウ 大学生対象研修会の開催
- (ア) 基本研修※オンライン実施 受講者数 198 名
- (イ) ワークショップ演習※オンライン実施 受講者数 198 名
- (ウ) 中学校対応研修(計 5 回 ※オンライン実施 1 回) 受講者数 25 名
- (エ) 応用研修(計 4 回 ※オンライン実施 1 回) 受講者数 10 名

【成果と課題】

今年度は高等学校 12 校、中学校 1 校の計 13 校で新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を講じながらワークショップを実施した。参加大学生のマスクとフェイスシールドの着用徹底と密を避けるために体育館を複数使うことやオンライン活用など、新しい生活様式に対応した実施方法を各校に提案し、協力を得ながら実施することができた。また、大学生会議や大学生対象研修会の開催においてもオンラインツールを活用することができ、大学生の単位取得に関わる対応も大学側と連携を取りながらできた。コロナ禍により、対面で行うワークショップや研修会の機会が激減し、「対話」という最も重要視したい部分ができなかったが、むしろできないことの苦しさ、難しさを実感したことによりコミュニケーションの重要性が明確になった。今後の研修会ではその点を考慮しながら研修内容の質を上げ、今年度の経験不足を補っていく。

高校生スキルアッププログラム推進事業 175 千円

【事業目的及び概要】

高校生の知識や経験の幅を広げ、社会の変化に柔軟に対応し、たくましく生きるための様々なスキルの向上を図るため、学校外における学修への積極的な取組を推進する事業である。

【事業内容及び結果】

- (1) 高校生スキルアッププログラム(スキルアップ認定証・奨励証の交付)の運営
- (2) 高校担当教員対象研修会の実施
- 「進路指導関係者研修会」の開催(大学生とカタル！キャリア形成サポート事業と共催)
- ア 期日：11/20(金)
- イ 場所：県総合社会教育センター
- ウ 対象：県内高等学校教員及び高校生スキルアッププログラム担当者、参加を希望する高等学校教員
- エ 参加者：17 校 22 名
- オ 事業説明・情報交換：県総合社会教育センター職員

(3) 評価サービス

参加校・参加生徒数・奨励証および認定証交付者数

地区	参加校数	参加生徒数	奨励証交付者数	認定証交付者数
東青	8校	426名	4名	9名
西北	2校	3名	0名	0名
中南	0校	0名	0名	0名
上北	3校	13名	0名	0名
下北	3校	590名	5名	12名
三八	8校	1,797名	70名	16名
合計	24校	2,829名	79名	40名

(4) 県民カレッジとの連携

事業連携によるあおもり県民カレッジ新規入学者数 1,055名

【成果と課題】

本事業で活用している様式と各学校で生徒が作成しているポートフォリオの共有化を図る呼びかけや利便性について情報提供を行ってきた結果、参加者数及び新規参加校の増加に繋がった。

コロナ禍で対面による活動が制限されたため映像教材視聴の認定単位拡張やオンライン講座等を単位として認可するよう対応した結果、今年度の奨励証及び認定証交付者数は、昨年度を大幅に上回った。特に、オンラインによる受講が認められたことで、高校生が今まで受講できないような県内外の会場で開催される講座や興味のある大学教授の講演会等を受講できるようになり、本事業を活用した高校生が自ら情報を収集し、積極的に学校外学修に取り組んでいる様子がうかがえた。

今後も、奨励証及び認定証交付者数を拡充するため、今以上に県内全ての高校への情報提供を効果的に行い、未登録校への参加を呼びかける等、新たな周知活動を行っていく必要がある。また、高校が行う申請手続きや生徒が活用する様式を整理し、高校担当教員が行う業務の簡略化を図るとともに、高校生が取り組みやすく、分かりやすいものに改良する必要がある。

青森で生きる未来人財育成事業 553千円

【事業目的及び概要】

県内市町村地域コミュニティの活性化や郷土に対する子どもたちの理解を深めることを目的として、土曜日等(日曜日・祝日・長期休業中を含む)の学習活動に高校生・大学生を派遣し、異年齢交流を行う事業である。

【事業内容及び結果】

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止を講じながら異年齢交流を行うため、Web会議システムを使用し、大学生、高校生による小学生、中学生への読み聞かせや学習支援、会話など参加者同士が繋がりを持つことができるプログラム「寺子屋オンライン」を実施する。

【登録者数】

校種別	登録者数	内 訳
小学生	9人	青森市4人、むつ市2人、六ヶ所村2人、六戸町1人
中学生	0人	
高校生	4人	
大学生等	13人	

【参加者数】

演習名	回数	参加者数
研修会 (高校生・大学生等のみ)	3回	大学生等 延べ16人 高校生 延べ1人
寺子屋オンライン	10回	大学生等 延べ42人 高校生 延べ10人 小学生 延べ42人
合計	13回	大学生等 延べ58人 高校生 延べ11人 小学生 延べ42人

【成果と課題】

高校生・大学生は終了後のミーティングで、自分たちで反省点や次への改善策を話し合い、高校生・大学生の主体性を育むことができた。参加した小学生や保護者から高い満足度を得ることができ、小学生や保護者のニーズを取り入れた参加者同士が繋がりを持つモデルプランを作成することができた。今後は、寺子屋オンラインでの活動ノウハウを生かして、オンラインでのレクリエーションを取り入れた計画を作成する必要がある。

青少年社会参加活動・創作活動モデル団体研究事業

【事業目的及び概要】

青少年の社会参加活動・創作活動の推進に取り組む方策の研究を目的として、高校生・大学生等を中心に社会参加活動・創作活動を行っている団体をモデル団体に指定し、支援する事業である。

【事業内容及び結果】

- (1) 団体募集(高校生や大学生、専門学校生等を主体とした団体)
- (2) 団体の指定

【社会参加活動モデル団体】

	団体名	校種	主な活動内容	メンバー数
1	青森学生団体ASC	高校	地域活性化を目的とし、郷土(青森)の魅力を発信	6名
2	L e s t a (レスタ)	高校 大学	異年齢交流、小・中・高校生へのキャリア形成支援等	23名
3	キャリアサポートクラブコンソーシアム(キャリサポ連合)	大学	大学生とカタル! キャリア形成サポート事業へのボランティア参加、高校生及び大学生のキャリア形成支援	665名
4	文学研究 Think With Us	高校	文学・作家研究会の開催、研究発表会、文学資料施設での解説ボランティア	4名
5	学生団体 LINDEAL	高校	地域活性化を目的とし、探究活動の場を企画・開催、校外活動運営支援等	18名

【創作活動モデル団体】

	団体名	校種	主な活動内容	メンバー数
1	確原色	高校	市内高校生を主体とした合同文化イベントの企画・発表	16名
2	ON	高校 大学 一般	地域活性化を目的とし、市内高校生を主体とした音楽イベントへ参加・発表	9名

(3) 団体支援

- ア 研修室等使用料の減免
- イ 運営会議・研修・作業等での教材開発室の使用承認
- ウ 発表の場の提供(生涯学習フェア等)
- エ 情報発信用の専用掲示スペースの設置
- オ 所報「響」やHP等での活動状況の紹介
- カ 社会教育主事等による情報提供とアドバイス
- キ 地域活動団体、創作活動団体、教育活動団体等との連携に関する連絡調整
- ク 協力名義使用の承認(「協力 青森県総合社会教育センター」など)

【成果と課題】

青少年社会参加活動モデル団体5団体、青少年創作活動モデル団体2団体が指定された。主な団体支援として、研修室等使用料の減免や、社会教育主事等による情報提供とアドバイス、協力名義使用の承認等を行った。また、研究のため、各代表を参集した代表者会議を開催したり、成果物や発表に対する一般市民及び主催者へのアンケート調査を行ったり、研究材料を蓄積した。現在行っている支援は各団体の活性化につながっていることが調査から分かった。特に、今年度はコロナ禍にありながら、活動内

容を工夫し、オンラインや掲示形式で実践発表するなど、積極的に新しい取組にチャレンジする姿がみられた。今後の課題として、支援可能な情報の発信を積極的に行い、モデル団体同士の横の繋がりを強化するミーティング等を開催するなど、持続的で活発な活動ができるよう支援を行う必要がある。

教員のためのチーム「学校・家庭・地域」連携講座

〔事業目的及び概要〕

新学習指導要領における「社会に開かれた教育課程」について理解を深め、その実現に向けて学校・家庭・地域が『チーム』として連携することを目的として、“未来の学校づくり・人づくり”に取り組む目的と重要性を共有し、具現化するための実践的な研修を行う事業である。

〔事業内容及び結果〕

(1) 対象：小学校・中学校・高等学校・特別支援学校教員等、市町村教育委員会職員

(2) 場所：県総合社会教育センター

(3) 受講者数：58名

(4) 事業内容

ア 日時：11/26(木) 9:20～16:00

イ 説明：「県内のコミュニティ・スクールと地域学校協働活動の現状」

県総合社会教育センター職員

ウ 講義：『「社会に開かれた教育課程」の実現に向けて」

～コミュニティ・スクールと地域学校協働活動～

講師 秋田県生涯学習センター 学習事業班 主幹兼班長 皆川 雅仁

エ 事例報告：「県内外の参考事例を紹介」

県総合社会教育センター職員

オ 演習：「目的を共有するための“熟議”」

ナビゲーター 秋田県生涯学習センター 学習事業班 主幹兼班長 皆川 雅仁

〔成果と課題〕

新学習指導要領が令和2年4月から小学校を皮切りに順次中学校、高等学校と完全実施となる。事前調査において関心が非常に高かった反面、「社会に開かれた教育課程」の理念を具現化するための取り組みについて、理解不足による不安を訴える回答もあった。

このような現状から、小中学校の校長や文部科学省コミュニティ・スクール推進員を歴任した実践者である皆川雅仁氏に講義と演習指導を依頼し、自身の知見を踏まえた、わかりやすく具体的な講義及び目的を共有するための有効な手立てである“熟議”の進め方を指導していただいたことにより、非常に充実した内容となり、受講者の高い満足度につながった。

地域学校協働活動とコミュニティ・スクールの一体的な推進を進めることが喫緊の課題となっている現状にあって、現場の先生方の理解が深まり、実践力を高めることが課題解決へ直結する。その意味で有効な研修機会を提供することができた。

次年度以降も、“未来の学校づくり・学校を核とした地域づくり”の具体的なイメージを構想できるような研修内容が求められている。

家庭教育応援隊養成講座 461千円

〔事業目的及び概要〕

地域全体で家庭教育を支援する体制を整備することを目的として、各地域で子育てを応援する家庭教育支援者やリーダーを育成する事業である。

〔事業内容及び結果〕

(1) 受講方法：Web会議システムを使ったオンライン研修

(2) 回数：各6回

(3) 受講者数(1回以上の受講者数)：18名

(4) あおもり家庭教育アドバイザー登録者：6名

(5) 内容：家庭教育支援講座・演習各6回

回	開催日	内容	受講者数
第1回	6/19 (金)	【開講式・オリエンテーション】 【講義】「社会情勢と家庭教育支援者の役割・心構え」 特定非営利活動法人 子育て応援隊ココネットあおもり 代表理事 沼田 久美	10名
第2回	7/10 (金)	【講義】「傾聴と親が育つ支援のあり方」 青森教育カウンセラー協会 副代表 佐々木 順子 【演習】「あおもり親楽プログラムⅠ」	15名
第3回	8/17 (月)	【講義】「気になる子どもの理解と対応」 弘前大学医学部心理支援科学部 教授 栗林 理人 【演習】「あおもり親楽プログラムⅡ」	9名
第4回	9/8 (火)	【講義】「子育てサロンの企画・運営について」 社会福祉法人 清光福祉会 城東保育園園長 三浦 テツ 【演習】「家庭教育支援動画を通じて」	10名
第5回	10/8 (木)	【講義】「心の通うコミュニケーション」 青森県立保健大学 健康科学部看護学科人間総合科学 教授 川内 規会 【演習】「あおもり親楽プログラムⅢ」	15名
第6回	11/10 (火)	【講義】「読み聞かせにおける工夫点」 青森大学 社会学部 教授 秋田 敏博 【演習】「あおもり親楽プログラムⅣ」	9名

【成果と課題】

当初、本事業は西北・中南地区を対象に、会場集合型で実施する予定だったが、コロナ禍の影響を受け、Web会議システムを使ったオンライン研修の形で実施した。講義は会場集合型と大きな遜色なく実施することができ、受講者のアンケートや講師の実感等から、学び応えの高い講座となったことがうかがえた。また、6回中4回受講をした方に、あおもり家庭教育アドバイザーへの登録申請が可能と規定したところ、7名がそれを満たし、うち6名から申請を受け、家庭教育支援者の養成のひとつの表れとなった。

本事業は今年度で終期となるが、今後も家庭教育支援者の養成は必要であり、次期事業でも展開していく。これまでも課題として挙げられてきたが、育成した家庭教育支援者を各地で既に活動している支援者や市町村教育委員会関係者等と結びつけたり、サークル等の立ち上げをする際の支援をしたりすることなど、より実践的に地域の力となって活躍する人財育成を目指す。

家庭教育支援動画制作普及事業 3,423千円

【事業目的及び概要】

県内における家庭教育の充実を図ることを目的として、子育ての不安や悩みに対する解決の糸口となる子育て情報を動画により発信する事業である。

【事業内容及び結果】

(1)家庭教育支援動画の制作及びテレビ放映(各5分)

家庭教育の重要性を広く普及するため、家庭や地域での様々な取組を紹介する。

- ア 肥満防止のための生活習慣
- イ ブルーライトから目を守ろう
- ウ 家事・育児は力を合わせて！

- エ 叱る前に 子どもにどう伝える？
- オ 食物アレルギーを知ろう！
- カ オンラインゲームとの付き合い方

(2) 委託業者選定審査会の実施

7/1(水)13:30~16:00 県総合社会教育センター 第2教材開発室にて、以下の委員により審査

	氏名	所属等
1	松浦 淳	青森中央短期大学幼児保育学科 准教授
2	葛西 浩一	青森県教育庁生涯学習課 課長
3	吉田 圭子	青森県子ども家庭支援センター(指定管理者 青森コミュニティビジネス株式会社) 部長
4	外崎 浩司	青森県PTA連合会 会長
5	高坂 あつ子	認定こども園ときわ保育園 園長 令和元年度家庭教育支援動画制作普及委員会

(3) 家庭教育支援動画の配信

(4) 各種研修会等での家庭教育支援動画の活用(今年度は実施例無し)

【成果と課題】

今年度の動画制作に当たっては、気軽に観てもらえること、影響力をもつことをねらい、5分ものを6本制作し、そのすべてをテレビ放映するとともに、動画投稿サイトへも掲載した。

アンケートには「どの動画も親に気づいて欲しい内容であった。」「若い世代には、映像で働きかけるのが伝わりやすいと感じた。」等があり、今年度もとても有益な情報提供ができた。中でも、コロナ禍の影響により、在宅勤務を通じ家族の良さを再発見したり、昨年度に引き続き青森県の課題として肥満対策の情報提供をしたことは、意義深い。

一方、今年度当センターのホームページに掲載した動画の閲覧者数が減少傾向にある。周知のためのチラシ・ポスターの配布時期を早めるなどの対策をし、あおもり家庭教育アドバイザーを通じ、興味のある方に本動画の存在に気づいていただくなどの工夫が必要である。

家庭教育相談事業 399 千円

【事業目的及び概要】

子育て中の不安や悩みを軽減することを目的として、乳幼児から高校生の保護者や家族を対象に、電話・メール等により、寄り添い型の家庭教育相談を行う事業である。

【事業内容及び結果】

- (1) 対 象：乳幼児から高校生までの子をもつ保護者やその家族
- (2) 実施方法：電話相談 週3回 月・水・木曜日(祝日・年末年始を除く)13:00~16:00
メール相談 24時間受付
- (3) 場 所：県総合社会教育センター電話相談室
- (4) 対応内容：発育・発達、しつけ、対人関係などの子どもに対する悩みや家庭教育全般について
- (5) 相談体制：家庭教育相談員、県総合社会教育センター教育活動支援課職員が対応
- (6) 相談件数：55件(電話相談33件、メール相談22件)

【成果と課題】

相談件数の総数は昨年度に比べ、減っている。相談手段として、メールは昨年度とほぼ同数だが、電話が減っており、今後はメール相談が主な方法となることを見込まれるため、その対応方法を学ぶ機会を増やすなどする必要がある。総件数が減っていることは、家庭教育に関する悩みが少ないとも捉えることができるが、悩みを抱えている方に本事業を展開していることがしっかりと届くよう、今後も周知を工夫する。

また、相談業務に当たる者の研修として、今年度は警察署の方を招いての講義を受け、今留意すべきことを学んだ。これにより相談業務に当たる者の資質向上とともに相談機関の連携強化ともなった。今後も、情報収集等に努め、より相談者の心情に寄り添える体制を整えていく。

県立図書館

子どもの読書活動推進のための図書セット貸出事業

[事業目的及び概要]

子どもの読書活動の環境づくりを進めることを目的として、小・中学校、高等学校、特別支援学校、市町村立図書館等に対して、幼児・児童・生徒用の図書セットを貸出する事業である。

[事業内容及び結果]

※年度末集計を記入予定

図書セットの内容		利用対象	前期		後期	
			配本先	配本冊数	配本先	配本冊数
(1) 巡回図書セット	小学校	低学年	36	3,400	33	3,040
		中学年	35	3,340	33	2,980
		高学年	35	3,200	33	3,080
	中学校	中学校	8	330	8	330
	読み聞かせ絵本 児童書等	幼稚園・保育所等	45	5,850	61	9,210
	大型絵本	幼稚園・保育所等	53	1,605	52	1,465
(2) 学習支援セット		小・中学校、高等学校、特別支援学校、市町村立図書館等	20	1,476	21	1,262
(3) ミニセット		市町村立図書館等 (一部高等学校・特別支援学校を含む。)	18	509	20	594

[成果と課題]

学校や市町村立図書館等への支援を継続的に行うことができている。

毎年度、新しい本を利用してもらえるように、図書セット内容の更新を進める必要がある。

県立梵珠少年自然の家

県立梵珠少年自然の家主催事業 1,453千円

(1) 看板事業

[事業目的及び概要]

教育効果が高い企画及びその運営手法などを広く普及啓発していくことを目的として、年長児から中学生までの幅広い年代を対象に、施設の魅力を生かした活動プログラムを提供していく事業である。

[事業内容及び結果]

活動名	期 日	対 象	参加者数	内 容
夏の7days キャンプ ～梵珠から西目屋へ 自転車と川下りで移動する 140km 真夏の チャレンジ!～	8/2(日)～8(土)	小学5年生～中学 3年生の 児童生徒	20名 (延べ140名)	出会いのつどい、自転車隊列走行 トレーニング、自転車による 移動型テント泊、野外炊事、溪 谷トレッキング、キャンプファイ ヤー、川遊び、ラフティング 体験、創作活動、別れのつどい
年長すくすくキャン プ～親元を離れての1 泊大冒険～	8/29(土)～30(日)	年長児	16名 (延べ32名)	出会いのつどい、仲間作りゲー ム、野外炊事、森の中で冒険遊 び、テント装飾、館内炊事、読 み聞かせナイト、ジャンボメダ ル作り、別れのつどい

9歳チャレンジキャンプ～ひとりできるぞ！～	9/19(土)～21(月)	9歳児童 (小学3・4年生)	24名 (延べ72名)	出会いのつどい、仲間づくり交流ゲーム、家族への手紙書き、ザリガニ釣り、段ボール基地作り、梵珠山縦走登山、キャンドルサービス、野外炊事、冒険遊び、創作活動、別れのつどい
7歳ワンツーカーキャンプ～寒さに負けない梵珠キッズの冬遊び～	2/27(土)～28(日)	7歳児童 (小学1・2年生)	23名 (延べ48名)	出会いのつどい、仲間作り交流ゲーム、スノーランド作り・遊び、ベッドメイキング、館内炊事、キャンドルサービス、創作活動、別れのつどい

[成果と課題]

看板事業は、いわゆる「子ども事業」として、年長児から中学生まで一貫した年代を対象に事業を実施してきた。参加者及び保護者からの本事業への関心は非常に高く、全ての事業において募集人員を上回る応募があった。特に「9歳チャレンジキャンプ」は、24名の応募に対して142名の応募があり、高い関心度が窺えた。こういった関心度の高さは、常に新しい企画を盛り込んだ事業の内容であったり、セミナーとして位置づけてきた大学生・高校生のボランティアスタッフの対応の良さであったりすることが、参加者のアンケート調査からも窺うことができた。本来であれば、応募者全員を受け入れて事業を実施したいところであるが、施設の規模であるとか、職員のマンパワー不足であるとかが原因で、応募者全員を受け入れることができない現状が課題である。

(2)養成事業

[事業目的及び概要]

自然体験活動の普及を図ることを目的として、当施設の利用団体の引率者、高校生、大学生、青少年教育団体等の関係者を対象に、基礎的技術の伝達や様々なプログラムを体験できる研修機会を提供し、自然体験活動の指導者及びボランティアを養成する事業である。

[事業内容及び結果]

活動名	期 日	対 象	参加者数	内 容
在学少年宿泊指導者研修	7/28(火)	令和2年度利用予定団体の引率者及び今後利用を考えている団体の引率者	62名	講義(宿泊体験学習に望むこと)、説明(施設利用に当たっての留意点及び食堂の利用、利用料の支払いについて)、活動プログラムデモンストレーション(新規活動プログラムの紹介など)、演習(日課表作成)
自然体験活動ぼんじゅボランティアセミナー (1)春を楽しむサン day (2)ボランティア入門セミナー (3)ファミリーキャンプ①・② (4)夏の7days キャンプ (5)年長すくすくキャンプ (6)9歳チャレンジキャンプ (7)自然体験ぼんじゅフェスタ (8)本格門松をつくろう	実施日は各事業を参照 (2)6/21(日)	高校生及び大学生	(1)中止 (2)41名 (3)34名 (4)28名 (5)26名 (6)18名 (7)中止 (8)5名	自然体験活動ぼんじゅボランティアセミナー対象11事業の中から、興味関心や日程の都合に応じて参加し、梵珠少年自然の家ボランティアとして、自主企画の実践や子どもたちの活動を支援し、自己のスキルアップを図る。 さらに、事後に企画及び運営に係るボランティアとしてのふりかえりを行い、次企画に向けた改善を図る。 各事業は実施期間に応じて単位が付与されており、7単位以上取得したものは「ぼんじゅマスターボランティア」、10単位以上取得したものは「指導補助員」としてそれぞれ認定する。

(9)冬にとびだそう (10)7歳ワンツーカー (11)ボランティアふりか えりセミナー	(11)3/6(土)	高校生及び 大学生	(9) 8名 (10)12名 (11)14名 ※人数は 延べ人数	【対象事業での活動内容】 ・管轄グループの活動支援、グループメンバーの体調管理及び安全管理 ・自主企画立案と運営 ・キャンプ等の野外活動における、基本的な知識や技術を習得するための研修や施設ボランティアとしての連携を深めるための実習など
指導者養成～ぼんじゅ 出前講座～	11月～3月 【各回即日】	幼稚園・保育園(認定 こども園含む)及び 小・中学校、特別支援 学校の小・中学部、PT A、青少年教育団体 (子ども会、児童館、放 課後子ども教室等)、公 民館	824名	団体が開催する各種行事(事業)に出向き、自然の家が提供するプログラムの実施における直接指導と助言を行う。直接指導及び助言とは、指導者への指導法等の伝達及び助言、児童生徒への直接指導、指導者研修会等での指導及び助言や実地指導である。 また、過去に出前講座を実施した団体については、用具の貸し出しや創作材料の提供及び指導方法の伝達のみを行う「間接指導」の利用を積極的に勧めていく。

【成果と課題】

養成事業は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、「在学少年宿泊指導者研修」は4月から7月に、「ボランティア入門セミナー」は5月から6月に延期して実施することとした。また、いずれも1泊2日で実施する予定であったが、即日開催に変更して実施した。事業内容についても2日で行う内容を1日に凝縮することとなったが、押さえるべきポイントを押さえて実施できたことは成果であったと言える。「ぼんじゅ出前講座」については、新型コロナウイルスの影響で利用数が例年よりも大幅に減少したが、施設利用が中止になった小学校への派遣であったり、職員を派遣しない間接指導の実施であったりなど、コロナ禍におけるニーズに応えられるような工夫をして実施できたことは、次年度以降につながる成果であったと言える。

(3)親子事業

【事業目的及び概要】

自然に触れ自然について学ぶことを契機に自然に親しむ態度を育てることを目的として、親子や一般県民を対象に、施設周辺の恵まれた自然環境を生かした多様な体験活動機会を提供する事業である。

【事業内容及び結果】

活動名	期日	対象	参加者数	内容
春を楽しむサン day～ 春の息吹を五感で感じよう～	4/29(水)	小・中学校の児童生徒を含む保護者とその家族	新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため中止	

ファミリーキャンプ ～初めて家族大歓迎～	① 7/11(土) ～12(日) ② 7/18(土) ～19(日)	小・中学校の 児童生徒を 含む保護者 とその家族	① 43名 (12家族 延べ86名) ② 39名 (12家族 延べ78名)	出会いのつどい、テント設営、 選択による野外活動体験① (ディスクゴルフ、自然観察、ザ リガニ釣り)、ダッチオーブン等 による野外炊事、選択による野 外活動体験②(ホテル観察、星空 ウォッチング、たき火)テント 泊、創作活動、別れのつどい
自然体験ぼんじゅ フェスタ	10/25(日)	自然体験活 動に関心 のある方	新型コロナウイルス感染症の感染拡大防 止のため中止	
本格門松をつくろう	12/12(土) 12/13(日) 【両日で4回実 施】	小・中学校の 児童生徒と その保護者 及び門松づ くりに関心 のある一般 の方	293名 (106家族)	開会行事、製作説明、本格門松 づくり(土台作り、飾り付け)、 昼食提供(希望者)
冬にとびだそう～親 子で白銀の世界へ～	2/6(土)～7(日)	小・中学校の 児童生徒を 含む保護者 とその家族	25名 (8家族 延べ50名)	出会いのつどい、雪の自然観察、 雪灯籠作り、館内炊事、夜の雪 灯籠祭り、創作活動、チューブ そり遊び、別れのつどい

【成果と課題】

親子事業は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、4月に実施予定であった「春を楽しむサン day」と、10月に実施予定であった「自然体験ぼんじゅフェスタ」は中止とした。その他の事業については、感染症予防対策をしっかりと行った上で実施することができた。特に、7月に実施した「ファミリーキャンプ」は、1回目と2回目の合計応募者数が266名(75家族)と、高い関心度が窺えたが、全員を受け入れることはできなかつたため、抽選の結果、82名(24家族)とした。また、冬に実施した「冬にとびだそう」は13家族の募集に対して8家族しか応募がなく、唯一の定員割れとなった。よって次年度以降は、人気のある夏の親子事業についてはニーズに応えるべく、即日のイベント形式として多くの参加者を受け入れるようにし、一方、人気のない冬の親子事業については、参加しやすくするために即日開催に変更して実施したいと考えている。

なお、これまで、材料集めや準備作業に莫大な労力を要してきた「本格門松をつくろう」は、「冬を楽しむクラフト day」として、親子で年末・年始の装飾品などを創作する事業に変更していく予定である。

県立種差少年自然の家

県立種差少年自然の家主催事業(自然と遊ぼう、子どもの祭典) 1,284千円

【事業目的及び概要】

小・中学生が家族や仲間とのふれあいを深めながら、心豊かでたくましい子どもを育てることを目的として、種差少年自然の家周辺の山野や海での自然体験活動や創作活動、キャンプ活動などを体験する学習機会の提供をする事業である。

【事業内容及び結果】

(1) 自然と遊ぼう

活動名	期 日	対象	参加者数	内 容
たねさしワールド 「エンジョイ! 海遊び」①② ※2回開催	7/5(日)	年長児・ 小・中学 生とその 保護者	143名	・いかだ遊び ・カヌー遊び ・サンドクラフト作り ・磯遊び
	7/12(日)		147名	

たねさしワールド 「秋を感じて」	10/18(日)		102名	<ul style="list-style-type: none"> 種差スタンプづくり ネイチャーリーフビンゴ ロウ引きしおりづくり
たねさしワールド 「晩秋のみちのく トレイルを歩こう」	11/1(日)		66名	<ul style="list-style-type: none"> みちのく潮風トレイル散策(ビーチコーミング、鳴き砂体験、野鳥観察) 森散策 貝がらストラップ
たねさしワールド 「冬の季節を感じて」	12/6(日)		114名	<ul style="list-style-type: none"> ミニ門松づくり ミニしめ縄づくり
たねさしワールド 「エンジョイ！ 雪遊び」①② ※2回開催	2/6(土)	4歳以上の 幼保・小・ 中学生と その保護者	89名	<ul style="list-style-type: none"> スノーチューブすべり ・せんべい焼き 冬の森探検 ・そり遊び ぐにゃぐにゃ凧遊び 昔遊び(竹馬、けん玉、こま回し)
	2/7(日)		108名	
たねさしワールド 「こども大作戦」 ①② ※2回開催	2/20(土) ～21(日)	小学3年 ～4年	50名	<ul style="list-style-type: none"> 宿泊、生活体験 仲間づくり 夜の森体験、冒険ハイク 館内ツリーイング ・たき火体験 スノーチューブ ニュースポーツ(スカットボール)
	2/27(土) ～28(日)	小学1年 ～2年	54名	

【成果と課題】

自然と遊ぶうでは、親子が三陸復興公園の四季折々のすばらしい自然環境のもと、里山や海岸散策、創作などの自然体験活動を存分に楽しみ、親子の絆と参加者同士の交流を深めていた。特に、「エンジョイ！海遊び」「エンジョイ！雪遊び」「冬の季節を感じて」では、本施設ならではのプログラムを生かした、「いかだ遊び」「スノーチューブ滑り」「ミニ門松づくり」「ミニしめ縄づくり」などのプログラムに申込みが殺到し定員オーバーになるほどで、参加者の興味関心がうかがわれた。

また、「こども大作戦」では、子ども同士で、宿泊、生活体験、自然物や自然現象とふれるためのプログラムを実施し、子どもたちに好奇心、探究心をもたせたり、感性を磨いたりさせるようにした。

アンケートの結果、参加者の満足度も極めて高く、心豊かでたくましい子どもの成長に寄与できたと感じている。

(2) 子どもの祭典

事業名	期 日	対象	参加者数	内 容
おいでよ！サマー キャンプA	7/30(木) ～31(金)	小学5年～ 中学3年	42名	<ul style="list-style-type: none"> テントでの宿泊体験 ・野外炊事 山活動(ツリーイング、ロープワーク キーホルダーづくり、グラウンドゴルフ) ・キャンプファイヤー 海活動(磯遊び) 他
おいでよ！サマー キャンプB	8/1(土) ～2(日)		51名	<ul style="list-style-type: none"> テントでの宿泊体験 ・野外炊事 山活動(関門突破ハイキング) キャンプファイヤー 海活動(カヌー、いかだ遊び、磯遊び) 他
わくわくどきどき ウインターキャン プ	12/24(木) ～26(土)	小学5年～ 中学3年	30名	<ul style="list-style-type: none"> 冬の野外テントでの宿泊体験 野外炊事 ・耐寒10kmウォーク 火おこし ・キャンプファイヤー 他

【成果と課題】

子どもの祭典のサマーキャンプでは、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、3泊4日の日程を1泊2日とし、5人用の常設テントを最大3名に使用させ、できる限り長期の密集、密接、密閉を避けるように実施した。実施プログラムでは、施設周辺の海岸や里山などの地域の特性を生かし、海での活動である「カヌー遊び、いかだ遊び、磯遊び」や山の活動である「関門突破ハイキング」「キャ

ンプファイヤー」「ツリーイング、グラウンドゴルフ」などを実施し、それらの自然体験活動を通して、異学年の仲間同士の交流や協力し支え合う姿が随所に見受けられ、真に生きる力の醸成になった。ウインターキャンプでは、季節の特性である雪や冬の寒さを体感することや地域の特徴を生かしたプログラムである「野外テント泊」「野外炊事」「耐寒 10 kmウォーク」などを実施し、参加者は「寒い、寒い」と言いながらも、グループが仲間同士励まし合い、協力し、楽しく活動している姿が見受けられ、キャンプの全体目標である「仲間と協力し支え合って冬を楽しもう」が十分達成できていた。

どのキャンプも、新型コロナウイルス感染症の感染予防と、参加者の健康・安全を最優先に考えた綿密な計画(時期、時間配分、内容、人員、参加者の特性など)が必要であるが、特に、参加者の中には、さまざまな問題を抱える子どももいるため、職員・ボランティアで細やかな情報共有をしながら事業を実施した。

自然体験活動支援事業 100 千円

〔事業目的及び概要〕

学校や公民館、児童館などの身近な施設内外の活動場所で、子どもたちに自然体験活動の場を提供することを目的として、種差少年自然の家職員が現地に出向いて自然体験活動や創作活動の実地支援を行う。また、自然体験活動や創作活動の指導者の資質能力の向上を目的として、小中学校及び少年団体指導者、市町村社会教育関係者等の指導職員を対象に行う研修事業である。

〔事業内容及び結果〕

事業名	期 日	対 象	参加者	内 容
自然体験活動 出前講座	4・5月及び 10～3月 *6～9月は原則 として実施なし	三八、上北管内の 小・中学校、児童館、 公民館、青少年団体 や成人団体 等	83 団体 3,534 名	・県立種差少年自然の家のプログラ ムの中で出前対応可能なもの (せんべい焼き、どんぐりアート、動 物マグネット、貝がらアート、たね さしアロマアート等)
自然体験活動 研修会	5/30(土)	幼・小・中学校教員、 高校・大学生、児童 館など関係機関の 指導者、その他自然 体験活動に興味の ある方	13 名	・アドベンチャーゲーム ・森探検 ・創作活動
	5/31(日)		20 名	・いかだ遊び、救助体験 ・磯遊び ・避難訓練、AEDの使用法

〔成果と課題〕

自然体験活動出前講座は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、昨年度まで利用した学校、公民館、市町村等の地域イベントの利用申込みが激減したが、その中であって、保育園、幼稚園、放課後児童クラブや障害者地域生活支援センター、特別支援学校が前年度よりも多く利用しており、利用者アンケートには、「教材費が安く、指導員が楽しく丁寧に教えてくれる」「指導していただけることで子どものやる気に変化や感動がおきる」など好意的に受け止められていることから、今後とも活動プログラムを見直し、各年代に合った内容を紹介しながら利用促進に努めていきたい。

「自然体験活動研修会」は、1泊2日の開催予定を新型コロナウイルス感染症の拡大の影響及び県の中堅教員研修会の参加がなかったことから、宿泊を伴わない2日間開催となったが、当施設の野外学習を実施予定校の教員、子ども会などの社会教育関係者、当施設のボランティア会員、高等専門学校生で研修を実施し、「いかだ遊び、磯遊びの実際・海の活動時の避難、救助訓練」では、参加者から「とても分かりやすく実際の活動時に役立つ内容だった」と高い評価を受けたことから、来年度は研修内容を見直し、さらに当施設を活用してもらえようような研修内容にしていきたい。

在学少年宿泊指導者研修

〔事業目的及び概要〕

県立種差少年自然の家を利用する小・中学校及び特別支援学校等の引率教員を対象に、宿泊学習や野外活動等を効果的に行うことを目的として、活動プログラムの内容・指導の仕方や施設・設備の利用の仕方等について研修するとともに、利用する際の日課表を具体的に作成する事業である。

○期日：4/20(月)～21(火)

○場所：県立種差少年自然の家

○対象：令和2年度利用小・中学校及び特別支援学校の引率教員 75名

[事業内容及び結果]

○講義：社会教育施設としての自然の家の効果的な利用の仕方

○実習：活動プログラムの実習(野外、自然、創作活動、夜の活動)、施設等の利用方法

○演習：活動計画の立案、プログラムの相談、事前打合せ、確認

[成果と課題]

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から中止となったが、各学校から提出された日程、活動内容をもとに、利用日1ヶ月前に当該学校と個別に本施設の新型コロナウイルス感染症拡大防止のマニュアルの確認・自然災害等による緊急時の安全対策の確認・プログラムの内容確認と支援の仕方・すり合わせなどを綿密に行ったり、実地踏査をして再度疑問点を確認したりした。その結果、宿泊学習や教育学習を実施した指導者のアンケートの中に、「海の近くに住んでいながら自然とふれあうことのない子どもたちに安心して活動させられた」「コロナウイルス対策も丁寧で安心して過ごせた」「活動支援に入った職員の対応や子どもへの言葉かけが丁寧で感謝している」など、本施設の宿泊学習・教育学習のねらいが達成されたと考えている。

親子で学ぶ防災キャンプ事業 129千円

[事業目的及び概要]

種差少年自然の家を避難所とし、避難場所の整備・運営を体験することによって、自然災害に遭遇したときにおける実践的な防災力を育むことを目的として、小・中学生とその家族及び小・中学校の教員を対象に行う研修事業である。

[事業内容及び結果]

事業名	期 日	対象	参加者	内 容
「親子の絆」 防災キャンプ	9/26(土) ～27(日)	小・中学生と その保護者	47名	・防災レクリエーション ・防災ラジオ作り ・避難所宿泊体験 他

[成果と課題]

避難所泊を想定し、家族同士で協力して過ごすことをねらいにするために、アイスブレイクを取り入れた「防災レクリエーション」、3密を避ける避難方法、分散避難方法、ハザードマップの見方を取り入れた「防災講話」、日常生活の不便さ、避難生活の大変さを感じてもらおうと非常食だけの炊事活動、いざというときに役立つ「防災ラジオ作り」、日用品を使用した応急手当の仕方やAEDの操作法などを実施した。その結果、アンケートの回答の中に「避難所体験ができてよかった」「非常食は気軽にでき、それに美味しかった」「ラジオ作りは難しかったが楽しかった」などがあり、参加者にとっては家族や他の家族との交流を深めるよいきっかけとなったり、防災に対する新たな知識の習得になったりと有意義で充実した1泊2日となった。

この事業は現代的課題でもある防災力や減災力の養成であり、特に三八管内ではニーズが高まっていることから、今後は防災士とも連携しながら活動内容を見直し、さらに地域全体に広げるために、募集期間や広報の仕方などを工夫して周知していきたい。

(2) 活力ある持続可能な地域づくりに向けた人財の育成

- ア 地域活動の実践者、コーディネーターの養成
- イ 次代の地域を担う若者の育成
- ウ 地域活動に関わる人財のネットワーク形成の支援
- エ 多様な働き方を可能にする学び直しの機会の充実

県生涯学習課

若者・女性の学び直しを通じたキャリア形成支援事業 4,824千円

〔事業目的及び概要〕

人生100年時代を見据え、職業に必要なスキルを生涯を通じて身に付けるための社会人の学び直しの推進が求められていることを踏まえ、県民の主体的なキャリア形成を総合的に支援するため、産学官民のネットワークを構築し、若者・女性向けのキャリアプランニング講座の開設及び学び直しの場への動機づけとなる啓発などを行うとともに、産学官民のネットワークを活用し、学びの入り口から出口まで切れ目のない総合的な支援体制のモデルを構築する事業である。

〔事業内容及び結果〕

(1) 青森県学び直し推進会議

○参加機関：県内大学・短期大学・専修学校・各種学校、県関係部局、市町村、商工団体・産業支援機関、就業支援機関、民間団体

○会議概要：第1回 7/16(木) 県総合社会教育センター

- ・学び直しを通じたキャリア形成支援に関連する事業・取組について
- ・学び直しを通じたキャリア形成支援ポータルサイト「Re-Learn Aomori (リ・ラーンあおもり)」の運用状況について
- ・国の動向について

第2回 10/15(木) 県総合社会教育センター

- ・学び直しを通じた主体的なキャリア形成の促進に向けて
(学び直しに係る啓発について、主体的なキャリア形成につながる学習機会について)

第3回 開催中止(学び直しに関する今後の取組について、書面で通知)

(2) 考え、学び、輝く未来へつなげるキャリアプランニング講座

ア キャリアプランニング講座

○対象：自分の適性や能力を発揮したいと考えている若者世代の方、子育て世代の女性

○場所、期日、内容等及び場所

	男性対象		女性対象		内容
	【青森会場】 男女共同参画プラザ カダール	【青森会場】 男女共同参画プラザ カダール	【三沢会場】 三沢キッズセンター そらいえ	【むつ会場】 下北文化会館	
第1回	7/21(火)	7/21(火)	7/27(月)	7/17(金)	男性:企業が求めているキャリアを考える 女性:女性のワークキャリアの課題を知ろう
第2回	9/ 7(月)	9/ 7(月)	8/24(月)	9/ 8(火)	男性:自分自身のキャリアを考える 女性:自分を知って自信をつけよう
第3回	9/29(火)	9/29(火)	9/28(月)	10/ 1(木)	男性:社会や環境の変化による、ライフイベントの理解 女性:キャリアアップへのセルフ・プランニング
第4回	10/13(火)	10/27(火)	10/26(月)	10/30(金)	男性:企業視点でのキャリアプランニング 女性:自己PRのポイントを知ろう
第5回	11/10(火)	11/30(月)	12/ 7(月)	11/19(木)	男性:企業ニーズと自分の特性のすりあわせ 女性:自分らしく Re Start!
受講者数	13名	3名	8名	5名	

イ フォローアップ研修会

○期日：2/20(土) ○場所：県総合社会教育センター ○参加者数：7名

○内容：①講義「自分らしく 社会で輝くために ～これからのキャリアを学ぶ～」
講師 株式会社I・M・S 取締役 一戸 竜基

②学び直しによって活躍している実践者による発表

発表者 東テク株式会社 青森営業所 計装事業部 施工管理者 石山 和也
株式会社 LinkS 代表取締役 結婚カウンセラー 角田 康浩
社会福祉士・精神保健福祉士・キャリアコンサルタント 園木 圭織

③講師・発表者を交えた意見交換

(3) 学びの場への誘導

ア 学び直しに関する啓発及びフォローアップにつながる冊子の作成・配付

○内容：①学び直しを通じてキャリア形成につなげた成功事例(実践者へのインタビュー)

②社会人のための学びの場の情報

③公共職業訓練(ハロートレーニング)「離職者等向け委託訓練」について

④自治体が実施する資格取得に関する経済的支援の取組について

⑤就業や起業、フォローアップに関する支援情報

イ 学び直しを通じたキャリア形成支援ポータルサイト「Re-Learn Aomori(リ・ラーンあおもり)」の運営

○内容：①「学習機会を調べる」ページ

②「支援情報を見る」ページ

・学び直しに係る経済的支援について

・キャリアプランニングについて

・就業支援について

・就業後のフォローアップについて

③「eラーニングコンテンツを視聴する」ページ

【成果と課題】

「青森県学び直し推進会議」では、2年間にわたり若者・女性の学び直しに係る学習機会や支援等の取組、国の動向、関係機関の連携・協力体制、啓発の方法等について、関係機関で情報を共有し、意見交換を行った。また、3地区(男性対象講座は青森会場のみ)で開催した「考え、学び、輝く未来へつなげるキャリアプランニング講座」では、講義や演習、グループでの意見交換を通して、自身の経験を振り返りながら強みや適性等に関する自己理解を深め、今後の就業や社会との関わりについて明確な目標を立てるなど、受講者の方々は意欲的な姿勢で参加していた。

今後、学び直し推進会議を通じて構築したネットワークを生かしながら、各関係機関において学び直しを通じたキャリア形成に係る支援の取組が継続される中、ポータルサイト「Re-Learn Aomori(リ・ラーンあおもり)」及び学び直し啓発冊子を用いた周知・情報提供に取り組んでいく。

社会教育を核とする地域ネットワーク活用促進事業(再掲)

(P8 (1)学校・家庭・地域の協働による未来を担う人財の育成に掲載)

若者の社会参加促進事業 687千円

【事業目的及び概要】

若者の社会参加を促進することを目的に、地域の青年組織、または新たに活動を始めようとする若者団体(以下、「若者団体等」)が企画立案する地域の課題等を踏まえたモデル事業を実施する事業である。また、ひきこもりやニート等の課題を抱える若者の社会参加を促進することを目的として、就労体験や自然体験活動等を実施する事業である。

【事業内容及び結果】

(1)若者の社会参加促進事業プランの実践

若者団体等の地域活動への参加や若者同士の関わり、地域のつながりを形成するモデル事業プランを実施した。

ア 東青地区(青森市)

<企画事業の実践①>

○期日：7/22(水) ○会場：CAFÉ&BAR WAYAWAYA(青森市) ○参加者数：10名

○内容：SNSネイティブ世代のためのスキルアップ講習会

SNS等の活用を幅広く促すプレゼンテーションを円滑にするために、コミュニケーション力を高めたり、コーチングを学んだりする講習会を開催した。

<企画事業の実践②>

○期間：7～12月 ○会場：CAFÉ&BAR WAYAWAYA(青森市) ○参加者数：5名

○内容：ネット活用に関わるワークショップ

SNS活用の技術を高めるほか、インターネット等を活用する上で必要なネットリテラシーやZoom、YouTube等の動画活用の勉強会を開催した。講習会や勉強会で学んだことを生かし、様々な動画を作成することで、動画活用のスキルアップにつながった。

<企画事業の実践③>

○期間：11～12月 ○会場：CAFÉ&BAR WAYAWAYA(青森市) ○参加者数：5名

○内容：プレゼンテーションを円滑に進めるためのリーフレット作成

実行委員のほか、ワークショップ等への参加者が、伝達講習等を自前のできるインストラクターとなるためのリーフレット(「基礎IT講座」・「SNS活用講座」)を作成した。また、Webサイトを制作し、本事業の取組を紹介するとともに、ITの知識やリテラシーの知識を共有できるようにした。

イ 中南地区(黒石市)

<企画事業の実践①>

○期間：8～11月 ○会場：青森駅前公園 ○参加者数：延べ20名

○内容：バイオマス素材で持ち歩きやすく加工したゴミ袋の配布

街で「ふと目に入ったゴミをすぐ拾えること」や「ポイ捨て防止」、「環境にやさしいこと」を若者がアピールし、青森を「気づいたらきれいにしていること」を多くの県民に実感してもらうため、約2,000のゴミ袋を配布し、本事業における取組を紹介した。

<企画事業の実践②>

○期間：10～12月 ○会場：青森駅・五所川原駅周辺 ○参加者数：延べ15名

○内容：おさんぽビンゴなゴミ拾い

ビンゴゲームをアレンジし、通常数字が記載される枠に「空き缶」や「タバコの吸い殻」等のイラストを付し、ゲーム要素を盛り込んでゴミ拾いを行った。ゲーム要素を盛り込むことで、子どもをはじめとする参加者が楽しみながらゴミ拾いを行った。

<企画事業の実践③>

○期日：10/31(土)、12/5(土) ○会場：八戸ニューポート・立佞武多の館 ○参加者数：15名

○内容：+α「デレッキ」ワークショップ

ゴミ拾い用「デレッキ」を自由にデコレーションし、子どもから大人まで自由な発想で「世界に一つだけのデレッキ」を制作した。普段よりも前向きにゴミ拾いをしたくなる気持ちが醸成され、地域住民のゴミ拾いに対する意欲が高まった。

ウ 三八地区(三戸町)

<企画事業の実践>

○期日：10/23(金) ○会場：三戸町城山公園内糠部神社拝殿 ○参加者数：53名

○内容：城山公園 ナイトアコースティックライブ

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、三戸町民が楽しみにしていた「さんのへ春まつり」と「さんのへ秋まつり」が中止となったことから、新たな地域イベントとして、アマチュアバンドによるアコースティックライブを城山公園内旧県社糠部神社拝殿にて開催し、翌年以降の継続開催に道筋をつけ、町民が楽しめる機会を創出した。

(2) 困難を抱える子ども・若者支援

不登校が続いている高校生やひきこもり・ニート等の課題を抱える状況にあり、社会とのつながりへのきっかけを求めている16歳～概ね40歳の若者を対象に、自立支援に向け、6～7月に体験活動を通じた交流を、8～9月に自然体験活動を、10月に就労体験を、種差少年自然の家及び梵珠少年自然の家等にてそれぞれ1回ずつ実施した。

<種差会場>

第1回自然体験・交流塾

○期日：7/11(土) ○会場：県立種差少年自然の家 ○参加者数：25名

○内容：せんべい焼き体験、創作活動 他

第2回自然体験・交流塾

○期日：8/29(土) ○会場：県立種差少年自然の家 ○参加者数：19名

○内容：野外炊事、創作活動 他

第3回自然体験・交流塾

○期日：10/17(土) ○会場：県立種差少年自然の家 ○参加者数：19名

○内容：就労体験(自然の家の活動プログラムで使用する植物採集等)、創作活動 他

<梵珠会場>

第1回自然体験・交流塾

○期日：6/27(土) ○会場：県立梵珠少年自然の家 ○参加者数：9名

○内容：野外炊事、創作活動 他

第2回自然体験・交流塾

○期日：9/12(土) ○会場：県立梵珠少年自然の家 ○参加者数：8名

○内容：簡易トレッキング、グループで取り組むゲーム活動、創作活動 他

第3回自然体験・交流塾

※新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から中止

[成果と課題]

「若者の社会参加促進事業プランの実践」では、若者を中心とした団体により地域の素材や人財を生かしながら、地域の魅力発掘や課題の解決を図る事業を行った。コロナ禍により様々な制約を受ける日常生活において、地域資源を生かすためのイベントやボランティア活動、地元商業者をサポートする取組など、若者が主体的に取り組むことで、主催する若者団体の企画力・実践力と社会参加に向ける若者一人一人の意識が向上した。

今後は、若者団体等が事業を企画し、実践するためのノウハウや組織運営の在り方等について学ぶ機会を創出し、若者一人ひとりの課題解決能力の向上を図るとともに、持続的な組織運営が可能になるよう支援する必要がある。

「自然体験・交流塾」では、これまで支援団体職員とボランティアが継続して参加していることから、お互いが顔見知りとなり、和やかな雰囲気を作りながら参加者と積極的に交流することができた。参加者は、支援団体職員やボランティアと一緒に野外炊事や就労体験、創作活動等の多様な体験活動を通して交流することにより、人との対話に喜びを感じ、本事業参加後には就労に対する意欲も高まった。本事業における体験活動は、参加者のコミュニケーション能力の向上を図る効果的な手段の一つでもあることから、今後も梵珠・種差両少年自然の家を活動の拠点とし、支援団体等と連携してコミュニケーションの向上を目的とした魅力あるプログラムを提供する必要がある。

県総合社会教育センター

パワフルAOMORI! 創造塾 825千円

[事業目的及び概要]

新たな地域活動者の発掘・育成を行うとともに、仲間づくりの促進やネットワークの形成・強化、地域活動の活性化を図り、地域コミュニティを牽引する人財を育成する事業である。

[事業内容及び結果]

(1) 講座内容

	期日	内容・講師等
第1回	10/17(土)	地域への想いを見つめる回 【講義・演習】「映像共生学とソーシャル・ストーリーテリング①」 ものがたり法人 FireWorks 映画脚本家 栗山 宗大
第2回	10/31(土)	地域への想いを見つめる回 【講義・演習】「映像共生学とソーシャル・ストーリーテリング②」 ものがたり法人 FireWorks 映画脚本家 栗山 宗大
第3回	11/14(土)	地域の今後は想い描く回 【講義・演習】『『想い』を『カタチ』にする方法①』 (株)官民連携事業研究所 チーフマネージャー 晝田 浩一郎
第4回	11/29(日)	想いを具体化する回 【事例発表】「パワフルAOMORI! 創造塾から得たもの」 第29期パワフルAOMORI! 創造塾 卒塾生 日野口 奈央

		第30期パワフルAOMORI！創造塾 卒塾生 山内 省吾 第31期パワフルAOMORI！創造塾 卒塾生 斉藤 文 同 江良 圭太 【講義・演習】『『想い』を『カタチ』にする方法②』 (株)官民連携事業研究所 チーフマネージャー 晝田 浩一郎
第5回	12/20(日)	アクションプランの発表、決意表明 【演習】わたしのアクションプラン上映会 講評 ものがたり法人FireWorks 映画脚本家 栗山 宗大

(2) 場所：県総合社会教育センター

(3) 参加者：塾生 20名 男性 12名 女性 8名 (20代 8名 30代 9名 40代 3名)

【成果と課題】

オンラインを軸とした講座内容・プログラムに再構築したことで、コロナ禍に対応した実施に至った。20～40代の年齢層、様々な職種、県内全域からの参加により、塾生同士の連携が深まった。全回参加を原則としたことと、5回の講座を集合形式とオンライン形式を織り交ぜながら実施したことにより、塾生同士のネットワークが広まった。講座内容について、地域活動を進める上でのポイントやノウハウ等を学ぶテーマを設定したことにより、より実践的に活用できる内容となり、塾生の満足度も高い結果となった。また、講座後の交流タイムや講座間のオンラインミーティング等を設けることにより、塾生相互のネットワークを構築することができた。過年度の卒塾生が地域活動を行っている様子を発表し、今年度の塾生が触発されるという形が出来つつある。オンラインを活用した今年度は、塾生の参加に対する心理的負担や距離的負担を大いに軽減させ、事務局・講師・塾生の情報伝達や情報共有に大きな力を発揮することができたので今後も継続していきたい。

機材を利用した仲間づくりやネットワークの形成は容易な反面、情報発信の積極性次第では具体的な活動へと展開しにくい面があるため、オンラインを活用した実践活動を計画・実行する必要がある。また、塾生が自らネットワークを広げ、新規の仲間を発掘しながら継続した活動となるよう、同窓会組織を有効に活用するなど、サポート体制を強化する必要がある。

持続可能な地域づくりのためのネットワーク会議

【事業目的及び概要】

社会の持続的発展のため、活力のある地域コミュニティの形成を目指し、地域の人財同士の連携・協働を可能とする弾力的で柔軟なネットワークづくりを図る事業である。

【事業内容及び結果】

(1) 地域ミーティング①

ア 期日・会場：上北地域 8/23(日)七戸南公民館
西北地域 8/29(土)鶴田町公民館

イ 概要：若者によるミニトークライブ(高校生・社会人等の若者)

ウ テーマ：「若者による、これからこの地域でやってみたいこと」

ファシリテーター 弘前圏域移住交流デザイナー 野口 拓郎

エ 対象：高校生以上の県民及び地域住民、地域づくり団体メンバー、社会教育・地域づくり関連部局行政職員及び施設職員等

オ 参加者数：(上北地域)…会場 17名、オンライン 10名 計 27名
(西北地域)…会場 21名、オンライン 6名 計 27名

(2) 地域ミーティング②

ア 期日・会場：上北地域 10/24(土)七戸南公民館
西北地域 12/ 5(土)鶴田町公民館

イ 概要：これからこの地域でやってみたいこと
「地域への思い・夢をまとめます」《中間活動報告》

ファシリテーター 県総合社会教育センター職員

ウ 対象：高校生以上の県民及び地域住民、地域づくり団体メンバー、社会教育・地域づくり関連部局行政職員及び施設職員等

エ 参加者数：(上北地域)…会場 10名、オンライン 5名 計 15名
(西北地域)…会場 16名、オンライン 3名 計 19名

(3) 県ミーティング

ア 期日：12/19(土)

イ 会場：県立図書館

ウ 概要：各地域ミーティング報告

上北地域…七戸町 七戸町地域おこし協力隊 花松 美佐

西北地域…鶴田町 鶴田町役場企画観光課 坂本 博之

エ 講演会：演題 『地域おこしの超重要世代～高校生の役割を探る～』

講師 弘前圏域移住交流デザイナー 野口 拓郎

オ 対象：高校生以上の県民および地域住民、地域づくり団体メンバー、社会教育・地域づくり関連
部局行政職員および施設職員等

カ 参加者数：会場 17 名、オンライン 11 名 計 28 名

[成果と課題]

活力ある地域コミュニティの形成を目指し、地域の人財同士の連携・協働を可能とする弾力的で柔軟なネットワークづくりを図ることを目的に県内 2 地域(上北・西北)において、ネットワーク会議を実施した。本会議を実施することで、地域の未来について互いに想いを語り合う機会を設けたことにより、ゆるやかなネットワークを生み出し、持続可能な地域づくりに向けた目的の共有を図ることができ、参加者はつながりを持つことができた。地域の課題や魅力を理解し、進学、就職した高校生が離れていても地元で貢献できる仕組みづくりの大切さや、帰郷した際に活躍できる環境整備の大切さを改めて感じさせる内容に、今後の地域おこしの未来と可能性を感じる事ができた。

今後は、本ミーティングのような対話する場を提供し、より多くの地域住民が主体的に想いを語り、共感し、協働して実践しようとするゆるやかな地域ネットワークが築ける仕組みづくりが必要である。

地域の今と未来をつなぐ教育支援活動コーディネーター等研修 594 千円

[事業目的及び概要]

学校・家庭・地域が連携・協働して地域の子どもの育むことを目的として、学校と地域住民・企業・NPO・各種団体等をつなぐコーディネーター等のスキルアップ及び人財の拡充を図るための研修を行う事業である。

[事業内容及び結果]

(1) 学校と地域・企業等をつなぐコーディネーターのスキルアップ研修の実施

ア 期日・場所：中南地区 8/4(火) 弘前市民会館

下北地区 8/4(火) 下北文化会館 ※オンライン研修

イ 対象：教育支援活動推進員、学校支援コーディネーター、企業・NPO等キャリア教育担当者、PTA関係者、教育委員会等担当者、教職員等

ウ 講師：特定非営利活動法人未来図書館 主任コーディネーター 恒川 かおり

エ 参加者数：中南地区 21 名 下北地区 11 名

(2) 地域資源を活用したキャリア教育推進フォーラムの開催

ア 期日・場所：11/6(金) 県総合社会教育センター

イ 対象：教育支援活動推進員、学校支援コーディネーター、企業・NPO等キャリア教育担当者、PTA関係者、教育委員会等担当者、教職員等

ウ 講師：特定非営利活動法人スクール・アドバイス・ネットワーク 理事長 生重 幸恵

エ 参加者数：会場 59 名 オンライン 19 名

(3) 「我が社は学校教育サポーター」ウェブサイトの管理・運営

ア 教育支援プラットフォーム「我が社は学校教育サポーター」ウェブサイトの管理・運営

イ 新規登録事業所の開拓、登録手続き

[成果と課題]

学校と地域・企業をつなぐコーディネーターのスキルアップ研修は、コロナ禍の影響を受け、中南地区は新型コロナウイルス感染防止対策を施した上で講師を招いた形での集合形式開催とし、下北地区はWeb会議システムを使い、中南地区会場からオンライン研修の形で実施した。

地域資源を活用したキャリア教育推進フォーラムは、講師は東京からWeb会議システムでつなぎ、参加者は会場に集合した形で開催した。また、自宅等からのオンラインでの参加も受け入れた。どちらの研修会も、オンラインを取り入れた開催となったが、通常の講師・参加者が会場に集合する形と大きな遜色なく実施することができた。

学校教育におけるキャリア教育支援について、学校と地域・企業が連携・協働することの必要性やその重要性、またコーディネーターの役割について、理解を深めることができた。今後も、学校と地域・企業等をつなぐサポートができるように、各地区教育支援プラットフォーム実行委員会、各教育事務所、市町村教育委員会と連携を図り、情報を共有していくことが大切である。

生涯学習・社会教育関係職員研修講座 484 千円

〔事業目的及び概要〕

生涯学習・社会教育関係職員及び関係団体職員等の資質向上のため、業務遂行に係る基礎的・実務的な研修を行うとともに、地域課題の把握と課題解決につながる実践的な知識・技能の習得と人財育成を目的とした研修を行い、ネットワーク形成を図る事業である。

〔事業内容及び結果〕

(1) 新任職員研修(受講者数 24 名)

- ア 期日：前期・後期同日開催…10/8(木)
- イ 場所：県総合社会教育センター
- ウ 回数：1 回
- エ 対象：市町村教育委員会の生涯学習・社会教育関係新任職員や関係団体等の新任職員等
- オ 内容：社会教育行政の業務遂行に係る基礎的な知識・技能の習得

(2) センター研修

- ア 時期：6～11 月
- イ 場所：県総合社会教育センター
- ウ 回数：3 回
- エ 対象：市町村教育委員会の生涯学習・社会教育関係職員や関係団体等の職員等
- オ 内容：第 1 回… 8/20(木) 「地域社会と学校」の今日的課題(受講者数 28 名)
第 2 回…10/30(金) 地域に根ざした講座を企画するために(受講者数 25 名、オンライン)
第 3 回… 2/ 9(火) 障害者の生涯学習を知る(受講者数 16 名)

(3) 地区研修

- ア 時期：7 月～2 月
 - イ 回数：6 回(1 回×6 地区 教育事務所単位)
 - ウ 対象：市町村教育委員会の生涯学習・社会教育関係職員や関係団体等の職員等
 - エ 内容：各地区の地域課題に即した実践的な知識・技能の習得と人財育成
 - 東 青… 7/ 9(木) 子どもを中心にした地域のつながりづくりのために
～「子ども食堂」の取り組みを通して～
(受講者数 24 名、オンライン)
 - 西 北… 9/18(金) 「地域と学校の連携・協働に関する現状と課題」を踏まえた市町村
教育委員会の役割
(受講者数 20 名、オンライン)
 - 下 北… 9/29(火) 生涯学習・社会教育関係職員及び関係団体職員等の資質向上
(受講者数 13 名)
 - 三 八… 9/25(金) 地域活性化と社会教育行政の役割
(受講者数 25 名、オンライン)
 - 中 南… 2/ 2(火) 地域活性化につながる地域学校協働活動の在り方
(受講者数 41 名、オンライン)
 - 上 北… 2/ 2(火) 地域活性化につながる地域学校協働活動の在り方
(受講者数 4 名、オンライン)
- ※中南地区、上北地区は同じオンライン講義を同時に受講した。

(4) 社会教育主事等専門研修(受講者数 14 名)

- ア 期日：12/3(木)
- イ 場所：県総合社会教育センター
- ウ 回数：1 回
- エ 対象：市町村の社会教育主事及び社会教育関係職員等
- オ 内容：国や県の動向、社会教育主事の果たすべき役割等、生涯学習・社会教育についての講義・演習・情報交換等を行う(オンライン)

[成果と課題]

成果としては、新方式のオンライン講座を春期に準備し、夏期以降に実施できたことで、ほとんどの講座で講義内容を変更せずに済み、当初のねらいにせまることができた、ということが挙げられる。また、受講者が会場に集合する形式での「講師のみオンライン参加」として開催できたことで、パソコンやインターネット回線環境が未整備の市町村職員も受講できたことも重要である。講座内容としても、この事業では初めて「障害者の生涯学習」をテーマとした研修を実施したことで、従来は参加がなかった公立図書館職員から複数の受講申込みを得たことも成果であった。

課題としては、センター研修の場合は、オンラインといえども結局受講会場は青森市であり、遠方からの参加者が「移動距離が長く参加しづらい」という従来の課題の改善までには至らなかったことや、ファシリテーターが介在すべきワークショップを予定していた講座については、結局ワーク自体を行わず講義中心のプログラムへと変更し、当初想定していた学びや経験の分量を減じてしまったことなどが挙げられる。このファシリテーションに関する学びは、地域学校協働活動やコミュニティ・スクールの運営者にとって必須のものであり、今後も継続して内容に取り入れるべきものである。対面方式、オンライン方式の別なく、ファシリテーションを体験して学べる講座となるよう、講師と協働して講座内容を進化させていく試みを行う必要がある。

(3) 生涯を通じた学びと社会参加の推進

- ア 高齢者や障害者を始めとする多様なニーズに応じた学びの機会の充実
- イ 学習成果を生かした社会参加活動の支援

県生涯学習課

特別支援学校を活用した生涯学習講座開設事業 216千円

[事業目的及び概要]

県民の生涯学習推進と開かれた学校づくりの促進を目的として、県立学校(特別支援学校)の有する専門性の高い教育機能を開放する事業である。

[事業内容及び結果]

学校名	期間	日数 (回数)	内 容	受講者数 (延数)
県立盲学校	7月	1日 (2回)	視覚障害者への支援と点字入門	21名(35名)
青森第二高等養護学校	10～1月	2日 (2回)	専門教科の製品開発を事例に、県産品を発信するためのデザインを学ぶ。	32名(64名)

[成果と課題]

特別支援学校が有する、より専門性の高い学校機能の開放を目的に特別支援学校のみで講座を開設している。受講者のアンケートによれば、「これからは障害のある方のために、何ができるのかを見つけ、行動していきたいと思う」「今後もこのような講座を続けてほしい」など、講座の満足度は高く、県民の学習ニーズに対応できている。

今年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、計画どおりに事業を実施できない学校もあった。今後は、実施方法について、各学校と相談・確認して進めていく必要がある。

障害者の生涯学習支援事業 814千円

[事業目的及び概要]

自立と社会参加を支援し社会性の向上を目指すことを目的として、集団生活や趣味の講座、障害者スポーツを通して他の卒業生や在校生、地域住民等と交流する機会を提供する事業である。

[事業内容及び結果]

(1) 社会参加学習

開設校	回数	時間	参加者数	主な内容
青森第二養護学校	1			会報の発行(同窓会員の近況及び行事の様子)
青森若葉養護学校	2	7	20名	体験活動(野外活動、スポーツ)
浪岡養護学校	1	2	9名	同窓会・成人を祝う会
八戸盲学校	2	4	27名	スポーツ体験、芸術教室(合唱)
七戸養護学校	1	1.5	13名	同窓会資料の配付
むつ養護学校	4			卒業生交流会(書面による情報発信)、会報の発行
合計	延べ回数	延べ時間	参加者数合計	
	11回	14.5時間	69名	

(2) スポーツ体験交流

実施日	開催場所	参加者数	内容
11/28(土)	青森若葉養護学校	20名	ニュースポーツ教室(バルバレーほか)
合計	開催回数	参加者数合計	
	1回	20名	

[成果と課題]

障害者の生涯学習支援事業は、卒業生が就労先での様子や卒業後の生活について近況を報告する場となっていることに加え、卒業生に就労や福祉、健康管理等の実生活に活用できる生きた情報を提供する場ともなっている。卒業生の卒業後のつながりや生きがい等を支える役割を担っているという点で、この事業は重要である。

スポーツ体験交流は、体を動かす機会が少ない卒業生にとって、主体的に運動することができるよい機会となっている。

今年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、計画どおりに事業を実施できない学校が多かった。今後は、実施方法について各学校と相談・確認しながら、事業を実施できるように進めていく必要がある。

県総合社会教育センター

元気青森人を創造するeラーニング推進事業 931千円

[事業目的及び概要]

自己の生き方や働き方について考えたり人生設計したりするための学習を、県民の誰もがいつでもどこでも手軽にできることを目的として、インターネットによる講座の配信を行う事業である。

[事業内容及び結果]

インターネットによる学習教材の配信(eラーニング)

(1) 元気青森人 PowerUp コンテンツ	計	116 本	(アクセス件数 : 1,652 件)
ア 公開講座		8 本	
イ ワンポイントアドバイス		16 本	
ウ はたらく心		92 本	
(2) あおもり学インターネット講座	計	43 本	(アクセス件数 : 4,137 件)
ア あおもりの自然		9 本	
イ 我がふるさとあおもり		10 本	
ウ あおもり学特別講座		23 本	
エ 青森県の先人		1 本	
(3) あおもり子育てネット	計	77 本	(アクセス件数 : 37,489 件)
ア 子育て動画		34 本	
イ 子育て得情報		30 本	
ウ 学習コーナー		13 本	

[成果と課題]

外出自粛や講座の中止などによる自宅学習が増えたことにより、アクセス件数が例年より増加した。eラーニングへの需要が高まっているため、閲覧者の利便性を鑑みて、新規コンテンツの拡充や、古いコンテンツの整理の他、サイトドメインの統合についても検討が必要である。

学習情報の収集・提供・整備事業 6,054千円

[事業目的及び概要]

県民の学習活動を支援することを目的として、各種学習情報を収集し、インターネットにより県民に提供するとともに、サーバ・パソコン機器等を維持管理する事業である。

[事業内容及び結果]

(1) 学習情報の収集・提供

4 情報(学習機会、指導者人材、団体・サークル、視聴覚教材)の収集・提供を行った。

・登録データ件数	学習機会情報	2,433 件
	指導者人材情報	1,449 件
	団体・サークル情報	1,088 件
	視聴覚教材情報	20,413 件
	計	25,383 件
・ありすネットアクセス回数	学習機会情報	3,023 回
	指導者人材情報	995 回
	団体・サークル情報	765 回
	視聴覚教材情報	1,306 回
	全情報	448 回
	計	6,537 回
・ありすネット検索回数	学習機会情報	867 回
	指導者人材情報	376 回

団体・サークル情報	298 回
視聴覚教材情報	1,057 回
全情報	178 回
計	2,776 回

(2) サーバ・パソコン機器等維持管理

青森県学習情報提供システム用サーバ・パソコン機器等を維持管理する。

【成果と課題】

実習用パソコン機器について、昨今の情勢を踏まえてWebカメラ等内蔵のノートPCを整備した。また、学習情報の検索については、外出自粛による影響か、講座やイベントなど学習機会の検索が減少し、視聴覚教材の検索数が増加した。

構築当時からのインターネット環境の変化や、現行システムの経年劣化を踏まえ、情報提供の形を、従来のデータベース型システムから、学習者を各情報提供元へ誘導することを目的とした形へと移行し、それに合わせた機器等の環境整備を行う必要がある。

青森県視聴覚ライブラリー運営事業 464 千円

【事業目的及び概要】

16mm フィルムをはじめとする県内の貴重な映像資料を収集・保管するとともにその活用を図り、県内の視聴覚教育の振興発展に寄与することを目的として、「青森県視聴覚ライブラリー」を運営する事業である。

【事業内容及び結果】

- (1) 生涯学習社会の充実を図る基礎資料を得るための調査・研究
- (2) 社会教育及び県民の学習活動のための研修施設・視聴覚機材の提供
- (3) 全国視聴覚教育連盟への加入
- (4) 視聴覚教材の購入 8 本
- (5) 視聴覚教材のデジタル化業務 255 本

【成果と課題】

VHS教材の劣化を見込み、県が作成した資料を中心に、DVDへのデジタル化を行った。今後はデジタル化の作業を進める他、貴重な資料である 16 mmフィルムの保存状態を保つための環境を整備するとともに、活用方法について検討を進める必要がある。

また、学校など、団体で利用可能な教材をより増加させていくとともに、積極的な利用について周知していく必要がある。

あおもり県民カレッジ運営業務

【事業目的及び概要】

県民の学習ニーズが多様化・高度化する中、興味・関心の高いテーマについて体系的・継続的に学習し、その学習成果が社会から適切に評価され、学習成果を生かして社会参加できることを目的として、県民の生涯学習を総合的に支援する事業である。

【事業内容及び結果】

- (1) あおもり県民カレッジの運営全般
 - ア あおもり県民カレッジ連携機関との関係強化
 - (ア) 連携機関登録団体に対し、協力関係の継続を依頼
※連携機関数：734 機関(体験施設 152 か所を含む)
 - (イ) 訪問による新規連携機関勧誘活動を実施
 - (ウ) 講座開催における協力などを通して、関係強化を推進
 - イ 生涯学習支援のネットワーク構築
 - ウ 事務局の運営(県民カレッジ学生への連絡、連携機関との連絡調整、運営に関わる事務)
 - ※あおもり県民カレッジ学生数 25,322 名(新規 1,139 名)
 - [教養学習コース 20,792 名(新規 1,086 名)]
 - [子どもカレッジコース 4,530 名(新規 53 名)]
- (2) 普及啓発事業
 - ア 学生募集(ポスターやパンフレットの作成)
 - (ア) あおもり県民カレッジ&生涯学習情報紙「てのひら」による募集

(イ)各種講座・イベント・映画鑑賞会の開催時に募集

イ 子ども向けイベント「2メートルを楽しむ県民カレッジ」の開催(7/24(金・祝))

(ア)公開授業(算数・社会・体育)

(イ)選択授業(工作・染め物・映画)

※参加者 52名

ウ 子ども向けイベント「冬休みづくりまわし大会」&「消しゴムはんこ作り+α」の開催(1/10(日))

(ア)県立郷土館との共催によるづくり(こま)まわしの大会

(イ)消しゴムはんこ作り

(ウ)かけっこゲーム、くじ引き、絵本の読み聞かせ ※参加者 82名

エ 学習機会提供

無料で古典的な名作映画を見ることができる映画観賞会を開催(8回)

オ 生涯学習HPの作成

(ア)指定管理者の生涯学習情報サイト<<https://www.manabi-aomori.com>>作成

(イ)地域キャンパス講座、ボランティア自主講座等の情報掲載と更新

(ウ)館内展示の情報掲載と更新

(3)学習情報提供・学習相談事業

ア 学習機会情報の収集及び提供

(ア)連携機関に対し新たな講座情報登録を依頼

(イ)連携機関等訪問による講座情報の調査収集

イ 活動機会情報の収集及び提供

ボランティア相談に対し、受入れ団体の情報を収集、提供

ウ 学習相談の実施

窓口・電話・FAX・郵便・Eメールによる学習相談の受付 ※相談数 37件

エ 県民カレッジ&生涯学習情報紙「てのひら」の発行

あおり県民カレッジ&生涯学習情報紙「てのひら」発行(年5回)

(4)学習機会提供事業

ア 地域キャンパス講座(県内6地区)開催

(ア)開催数 東青12回、西北6回、中南5回、上北7回、下北2回、三八0回

(イ)受講者数 延べ905名

(ウ)青森テレビの「いきいき健やか事業」との連携によるテレビ番組内で講座情報や県民カレッジPRを放送。(テレビ43回、ラジオ52回)

イ ボランティア活用支援

(ア)ボランティア講師登録の奨励と自主講座の開催

※講師登録数 114名

※講座数 52講座 受講者数 延べ328名

(イ)映画観賞会等における運営ボランティアの活用

※活動者数 延べ62名

ウ 「カダイ」は「マナビ」のチャンス!YOU遊トライアル運営

(5)評価サービス及び学習成果の活用支援事業

ア 認定証・奨励証の交付

(ア)認定証交付数

教養学習コース 383名 子どもカレッジコース 141名

(イ)奨励証交付数

教養学習コース 43名 子どもカレッジコース 55名

イ ボランティア活動証明書の発行

[成果と課題]

カレッジ連携機関については、未加入の施設・団体に働きかけ2機関の新規加入を得た。新型コロナウイルス感染症の影響により、生涯学習フェアを開催できなかったが、高校生を含むボランティアの協力を得て、子ども向けイベントを夏と冬の2回開催し、参加者から満足の声を聞くことができた。

コロナ禍がきっかけとなり、今後各講座を開催するに当たり、直接会場に向かうことなく、リモートで参加できるよう、オンライン環境を整備していく必要がある。また、カレッジ学生数は毎年増加しているが、入学から一定年数を過ぎた学生の継続意思確認を実施していないため、確認方法を検討する必要がある。

インフォメーションプラザありすの運営

〔事業目的及び概要〕

インフォメーションプラザありす(学習情報サービス室)は、生涯学習に関する総合窓口であり、各種の相談対応のほか、視聴覚教材の貸出サービス、図書資料等の閲覧サービス等の業務を行う。

〔事業内容及び結果〕

- (1) 窓口対応
- (2) 社会参加活動支援センターの運営
主催事業及び連携機関が実施する事業等における活動機会斡旋
- (3) 視聴覚教材貸出サービス
- (4) ポスター、チラシ、図書資料等の展示
- (5) 学習成果の展示
みんなのギャラリー、ギャラリーsha-se、画伯のたまごへの作品展示
- (6) コロナ禍における座席の配置や消毒作業の徹底

〔成果と課題〕

学習スペースの利用が定着し、特に学校の試験前などは多くの学生・生徒の姿が見られ、打ち合わせなどで利用できることも利用者に周知され、空き研修室を利用した自主学習室を含め、目的に合った利用状況が定着してきたところである。新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、座席や机の数を減らしていることから、満席になることもあるが、引き続き、快適な学習環境の整備に努めることが、県総合社会教育センターの活性化に寄与するものと考えている。

ボランティア活動支援機関連絡会議

〔事業目的及び概要〕

ボランティア活動を支援する機関のネットワークの構築・強化を図ることを目的とし、情報共有・情報交換を行う会議を開催する事業である。

〔事業内容及び結果〕

新型コロナウイルス感染防止のため、連絡会議は中止となったが、調査票による聞き取りを行った。

〔成果と課題〕

情報交換にとどまらず、地域を横断したネットワークの構築等についても話し合う場にしていく必要がある。

県立図書館

近代文学館 特別展開催事業 556 千円

〔事業目的及び概要〕

青森県の近代文学に関する理解を深めることを目的として、特定のテーマに添った特別展を開催する事業である。

〔事業内容及び結果〕

新型コロナウイルス感染防止の観点から、展示・文学講座等のイベントは中止とし、図録のみを発行した。

近代文学館 企画展開催事業 775 千円

〔事業目的及び概要〕

青森県の近代文学に関する理解を深めることを目的として、近代文学館が収蔵している資料を展示・公開する企画展を開催する事業である。

〔事業内容及び結果〕

- (1) 「ミステリーの魔術師 高木彬光生誕 100 年展」
 - 会期：10/24(土)～1/11(月・祝)
 - 場所：近代文学館企画展示室
 - 内容：青森市に生まれた高木彬光は、「刺青殺人事件」が江戸川乱歩の眼にとまり、ミステリー界にデビューした。高木彬光の生誕 100 年に当たる今年、当館で収蔵している彬光の直筆資料・図書雑誌、そして初公開となる彬光の旧蔵図書を展示し、ミステリーに新たな側面を持たせた高木彬光の生涯と作品を紹介する展示を開催。

○展示資料数：628点(原稿・草稿6点、図書576点、雑誌36点、印刷物9点、書画1点)

○来場者数：2,158名

(2)「追悼 新谷ひろし氏寄贈資料展」

○会期：2/20(土)～5/16(日)

○場所：近代文学館企画展示室

○内容：俳人の新谷ひろし(あらや・ひろし)氏は、1930(昭和5)年に南津軽郡大杉村(現・青森市)で生まれた。1947(昭和22)年に青森俳句会に入会し、俳誌「暖鳥」に参加。後に同誌の編集人、さらには主宰を務め、2006(平成18)年の終刊後は新たに「雪天」を創刊主宰。2020(令和2)年9月29日に満89歳で逝去された。かつて青森に俳句の文学館を作りたいという夢を抱き、収集に取り組みされた俳人・新谷ひろし氏を偲び、その寄贈資料の中から、青森県俳句に関する貴重な数々を公開する展示を開催。

○展示資料数：203点(図書57点、雑誌17点、年鑑21点、書簡3点、書画89点、遺品16点)

○来場者数：987名(3/31現在)

【成果と課題】

「ミステリーの魔術師 高木彬光生誕100年展」では、師である江戸川乱歩・横溝正史、親友である山田風太郎とのエピソードもパネルで紹介し、彬光が生み出した探偵役の初登場シーンや推理小説のジャンルについて紹介することで、幅広い世代のミステリーファンの興味をひくことができた。当館に収蔵している彬光の推理小説の著書をほぼすべて展示することで、彬光の膨大な推理小説作品の数々をご覧いただき、推理小説にかけるこだわりを伝えた。新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策として展示・イベントでは人数制限を徹底したが、団体見学については一部断らざるを得なかった。

「追悼 新谷ひろし氏寄贈資料展」では、新谷氏の追悼と新谷氏の寄贈資料の紹介とを両立させるべく3部構成を取った。第1部「俳人・新谷ひろし氏の歩み」では、新谷氏の句集や直筆の書画を中心に55点の資料を展示、第2部「諸家の色紙・短冊」では「暖鳥」に参加していた俳人や青森県俳句懇話会の会長を務めた俳人による書画を中心に122点の資料を展示、第3部「遺品及び句碑関係資料」では新谷氏の遺品を中心に26点の資料を展示した。全体を通して、風土と人を愛した俳人である新谷氏の存在の大きさと青森県俳句の奥深さを浮き彫りにした。

アウトリーチサービス推進事業 428千円

【事業目的及び概要】

来館による図書館利用が困難な重度心身障害者や要介護高齢者等に対して、宅配便による図書の搬送を行い、来館しなくても図書館資料を利用できる環境を提供する事業である。

【事業内容及び結果】

○登録者数：56名(うち新規登録者数0名)

○貸出：件数110件/冊数588点

【成果と課題】

県立図書館に直接来館することが難しい障害者や高齢者等に対して、サービスを提供することができた。課題としては、利用者が希望する資料が本館にない場合の対応が難しいことがあげられる。

(4) 社会教育推進のための基盤整備

- ア 社会教育推進体制の充実
- イ 社会教育施設の機能の充実と活用の促進
- ウ 社会教育関係職員の養成と資質の向上
- エ 社会教育関係団体等の活動の支援

県生涯学習課

生涯学習推進基盤整備事業(生涯学習推進本部、青森県生涯学習審議会) 974千円

〔事業目的及び概要〕

生涯学習振興法(生涯学習の振興のための施策の推進体制等の整備に関する法律)の趣旨を踏まえ、本県の生涯学習推進体制を整備していくため、生涯学習推進本部等を運営する。また、生涯学習推進に資する施策の総合的な推進に関する重要事項について調査、審議するため、生涯学習審議会を運営する。

〔事業内容及び結果〕

(1) 生涯学習推進本部

生涯学習に関する関係部局相互の連携、協力を図り、生涯学習関連施策を一体的、効果的に進めるため、県の関係各課、出先機関等が実施する生涯学習関連事業について調査を行い、結果を取りまとめる。

(2) 青森県生涯学習審議会

県教育長から諮問された審議テーマについて調査し、県生涯学習課が今後取り組むべき事業について審議する。

<第14期青森県生涯学習審議会>

○委員：15名

○任期：2年(H30/10/19～R2/10/18)

○諮問：「人口減少下における地域コミュニティ再生のための生涯学習の推進の在り方」

○審議テーマ：「持続可能な地域づくりを担う若者を支援するための仕組みづくりについて」
「青少年の体験活動等の推進の在り方について」

○会議等の概要：第5回審議会 6/29(月) 答申案(素案)について

第6回審議会 9/25(金) 最終答申案について

答申書提出 10/2(金) 会長から県教育長へ提出

<第15期青森県生涯学習審議会>

○委員：15名

○任期：2年(R2/10/19～R4/10/18)

○諮問：「青森県における新しい時代の生涯学習・社会教育の推進の在り方について」

○審議テーマ：「多様な人々のつながりと新しい技術の活用による生涯学習・社会教育の推進について」

○会議等の概要：第1回審議会 11/27(金) 諮問内容について

第2回審議会 2/2(火) 審議テーマに係る課題等について

〔成果と課題〕

第14期審議会からは、「人口減少下における地域コミュニティ再生のための生涯学習の推進の在り方」について、若者が自ら地域活動を企画するなど、主体的な活動を通じて、若者と地域とのつながりを深めることや、地域で活動している多様な団体をつなぐ機会を創出し、それぞれが持つ専門性を生かし、互いに協力し合うことで、若者の活躍の場の創出につながる等々の提言をいただいた。

第15期審議会では、審議テーマの「多様な人々のつながりと新しい技術の活用による生涯学習・社会教育の推進について」に関する審議を進めているところであり、今後、先進事例実地調査等の分析を踏まえ、提言をまとめていくこととしている。

生涯学習・社会教育総合調査研究事業 1,164千円

〔事業目的及び概要〕

本県における生涯学習・社会教育の推進を図るための基礎資料を得ることを目的として、生涯学習・社会教育支援体制に関する調査を行う。

[事業内容及び結果]

県内の小学校5年生及び中学校2年生の保護者を対象にアンケート方式による調査を行い、その結果を分析し、報告書にまとめる。

- 調査テーマ：「家庭教育支援の充実のための実態等把握調査」
- 調査対象：4,000人(小学校5年生の保護者2,000人、中学校2年生の保護者2,000人)
- 顧問の委嘱：調査研究に係る指導助言のため、大学教授等に研究顧問を委嘱
- 報告書：110部を印刷し関係機関に配付するほか、ホームページでも公開

[成果と課題]

今回の調査では、保護者の労働形態が多様化し、休日や労働時間がシフト制となっている職種も多いことから、時間や場所が制約されないインターネット・SNSを活用した講座・研修会が志向されていることがわかった。また、「知りたい情報を誰から得ているのか」「知りたい情報を誰から得たいか」という設問に対して、学校を選んだ回答が一定数あったことから、最も身近な存在として学校への期待が高いことがわかった。

今後は、調査研究の成果を、本県の家庭教育支援の在り方についての検討及び関連する施策・事業に生かしていく。

青森県社会教育委員の運営 369千円

[事業目的及び概要]

社会教育法第17条に基づき、本県社会教育の振興方策について審議及び調査研究を行い、県教育委員会に答申、建議を行う。

[事業内容及び結果]

(1) 第34期青森県社会教育委員

- 委員：8名 ※青森県生涯学習審議会委員との兼務
- 任期：2年(H30/10/19～R2/10/18)
- 調査研究テーマ：「人づくり・つながりづくり・地域づくりの拠点としての社会教育施設の在り方」
- 会議等の概要：第5回審議会 5/20(水) 答申案の方向性について
第6回審議会 7/29(水) 答申案(素案)について
※最終答申案については、第6回青森県生涯学習審議会で審議

(2) 第35期青森県社会教育委員

- 委員：8名 ※青森県生涯学習審議会委員との兼務
- 任期：2年(R2/10/19～R4/10/18)
- 調査研究テーマ：「地域全体で子どもを育む家庭教育支援の在り方について」
- 会議等の概要：第1回審議会 11/27(金) 調査研究テーマについて
第2回審議会 2/16(火) 調査研究テーマに係る課題等について

[成果と課題]

第34期社会教育委員の会議からは、「人づくり・つながりづくり・地域づくりの拠点としての社会教育施設の在り方」について、首長部局や教育機関、企業、NPO等の多様な主体との連携を推進し、それぞれの専門性や継続性を運営に生かすことで、社会的困難を抱える人を支援し、そうした人が気軽に参加できる場を提供することや、若者のアイデアを若者自身が実践していくなど、若者の参加を引き出す工夫が重要であること等の提言をいただいた。

第35期社会教育委員の会議では、審議テーマの「地域全体で子どもを育む家庭教育支援の在り方について」に関する審議を進めているところであり、今後、実地調査等の分析を踏まえ、提言をまとめていくこととしている。

市町村の社会教育に関する現状調査及び「青森県の社会教育行政」の作成 265千円

[事業目的及び概要]

本県社会教育施策の企画・立案の資料作成を目的として、各市町村における社会教育事業実施状況及び社会教育施設・社会教育関係職員・生涯学習推進体制の状況等について調査する事業である。

[事業内容及び結果]

- (1) 市町村の社会教育行政調査
- (2) 市町村の生涯学習推進体制等の状況に関する調査
- (3) 「令和2年度青森県の社会教育行政」の作成配付(600部作成)

[成果と課題]

県及び市町村における社会教育事業の概要・実績、社会教育行政の現状等について取りまとめ、社会教育行政関係者に広く周知した。

社会教育主事有資格者育成派遣事業 1,340 千円

[事業目的及び概要]

社会教育指導体制の充実を図り、社会教育主事有資格者を育成することを目的として、教育事務所等の指導主事、小・中学校の教員を社会教育主事講習に派遣する事業である。

[事業内容及び結果]

社会教育主事講習 [B] (国立教育政策研究所社会教育実践研究センター主催) 岩手会場への派遣

※令和2年度弘前大学社会教育主事講習が中止となったため

研修期間：1/21(木)～2/5(金)インターネットによる受講

2/8(月)～2/18(木)岩手県立生涯学習推進センターで実施

派遣者数：教育事務所主任指導主事3名及び指導主事2名

[成果と課題]

中南・上北・三八教育事務所の主任指導主事、西北・下北教育事務所の指導主事が社会教育主事講習を修了し、社会教育主事有資格者となった。社会教育主事を増やすことで、今後さらなる社会教育体制の充実を図っていく。

生涯学習専門講座派遣事業 0 千円

[事業目的及び概要]

生涯学習の振興において中核的な役割を果たす専門的職員を育成することを目的として、関係職員を中央研修に派遣する事業である。

[事業内容及び結果]

(1) 社会教育主事専門講座(オンライン開催)

受講者なし

(2) 地域教育力を高めるボランティアセミナー

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため中止

※(1)、(2)ともに国立教育政策研究所社会教育実践研究センター主催

[成果と課題]

令和2年度は受講者がなかったが、今後も専門的教育職員育成のため、引き続き中央研修への派遣を実施し、最新の知見が得られるよう努める。

社会教育主事等一般研修 15 千円

[事業目的及び概要]

県社会教育関係職員が一堂に会し、県の社会教育行政の方針と重点について研修と情報交換を行い、職務遂行能力のスキルアップを図る。

[事業内容及び結果]

研修会の開催 年2回

[成果と課題]

討議と情報交換を通じて、施策の方向性や取り組むべき重要課題、そしてこれからの社会教育の在り方と、それを担う職員に求められる資質等について学び、職員間で共通理解が図られた。

在学青少年育成費補助事業 359 千円

[事業目的及び概要]

青少年教育の機会拡充をより一層図ることを目的として、県内の在学青少年(高校生)を対象とした講演会事業に対して助成を行う事業である。

[事業内容及び結果]

主に東京及びその近郊に在住する青森県出身者並びに青森県にゆかりのある方々を講師として県内高校に派遣する講演会事業に対する助成。

開催日	場 所	参加生徒数	内 容
10/8(木)	県立弘前実業高等学校	837 名	演題 「『ものづくり』の心得、三つのタネを育てる」 講師 (株)ティー・シー・エイ 代表取締役 千葉 貴司
	県立柏木農業高等学校	381 名	
10/28(水)	県立六ヶ所高等学校	173 名	演題 「大切なこと」 講師 作家 青木 裕次
10/29(木)	県立野辺地高等学校	238 名	

※当初は6校での実施を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、2校での講演が中止となった。

[成果と課題]

本県にゆかりのある著名な講師による、職業観や人生観、命の大切さ、新しい分野に挑戦し続ける姿勢の大切さなどをテーマとする講演は、高校生にとって、これから直面する様々な課題に柔軟かつたくましく対応し、社会人として自立していくための多くの示唆を与える機会となっており、今後も引き続き助成を継続していく必要がある。

社会教育を核とする地域ネットワーク活用促進事業(再掲)

(P8 (1)学校・家庭・地域の協働による未来を担う人財の育成に掲載)

県総合社会教育センター

ボランティア関係者情報交換会 127 千円

[事業目的及び概要]

本県の社会参加活動の推進及び充実を目的として、対話・参加型のディスカッションを開催し、ボランティア関係者、実践活動者等の資質の向上を目指す事業である。

[事業内容及び結果]

- (1)研修会名：ボランティア関係者情報交換会
- (2)受講方法：オンライン受講、スクリーン受講の選択
- (3)内容

ア 〈第1回〉参加者 25 名

12/21(月) スクリーン会場 八戸ポータルミュージアムはっち

講義・演習 若者が参加するボランティア活動とは①

講師 八戸学院大学健康医療学部 教授 吉田 守実

イ 〈第2回〉参加者 32 名

1/7(木) スクリーン会場 アウガ

講義・演習 若者が参加するボランティア活動とは②

講師 岩手県立大学社会福祉学部 准教授 菅野 道生

[成果と課題]

オンライン受講により県内各地からの参加の他、ボランティアに興味がある高校生・大学生の参加も増えた。講座や参加者同士の意見交換をとおして、関係者の資質の向上とともに若者の社会参加活動促進のきっかけを作ることができた。今後は、ボランティア実践者の参加が増えるよう、期日や内容を精査し本県の社会参加活動の充実を目指す必要がある。

生涯学習・社会教育関係職員研修講座(再掲)

(P24 (2)活力ある持続可能な地域づくりに向けた人財の育成に掲載)

県立図書館

県立図書館資料整備 64,469 千円

[事業目的及び概要]

県民の生涯学習の拠点として、充実した図書館サービスを提供することを目的として、利用者の幅広い学習のための資料や情報などの整備を図る事業である。

〔事業内容及び結果〕

(1) 受入資料数(R2/4/1～R3/3/31)

区分	受入資料数
県立図書館(本館)	21,907 冊
市町村等協力用	4,181 冊
近代文学館	3,054 冊
合計	29,142 冊

(2) 図書館利用状況(H31/4/1～R2/3/31)

図書館利用者数		222,263 名	
近代文学館利用者数		16,276 名	
年間利用資料数	一般閲覧室	141,192 冊	※アウトリーチサービス 身障者等への配本サービス
	児童閲覧室	46,878 冊	
	オンライン貸出	8,466 冊	
	新聞未合冊等	5,605 冊	
	アウトリーチ(全体の内数)	(588 冊)	
	市町村一括(協力)貸出等	41,155 冊	
	計	243,296 冊	
年間登録者数	新規登録者数	2,358 名	※うち、アウトリーチ総登録者 数を含む。
	総登録者数	18,432 名	

(3) 市町村図書館等への貸出の状況(H31/4/1～R2/3/31)

相互貸借 (県立図書館からの貸出)	県内市町村立図書館等	5,757 冊
	県外公共図書館等	624 冊
	計	6,381 冊
団体一括貸出	26,309 冊	
集団読書用図書	120 冊	

市町村立図書館等職員研修事業 249 千円

〔事業目的及び概要〕

市町村立図書館等の運営上の課題解決、情報交換及び職員の資質向上を図ることを目的として、市町村立図書館等職員研修を実施するとともに、相互協力事業を円滑に行うために県立図書館事業等担当者会議を開催する事業である。

〔事業内容及び結果〕

(1) 担当者会議

5/20(水)に開催し、市町村立図書館・公民館図書室等と県立図書館間の相互協力事業についての説明を行うとともに情報交換会を実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から資料配付のみ実施。

(2) 初任者研修

6/10(水)・6/11(木)に開催し、図書館勤務概ね2年以内の市町村立図書館・公民館図書室等職員及び学校図書館担当者を対象として図書館の役割や基本的なサービス等を理解するための講義と演習を行う予定であったが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から資料配付のみ実施。

(3) 学校図書館支援研修

ア 開催日	9/30(水)
イ 場所	県立図書館
ウ 対象	市町村立図書館、公民館図書室等の職員及び学校図書館の業務を担当する職員等
エ 参加者	市町村立図書館等職員 29 名、学校図書館業務担当職員 22 名
オ 内容	テーマ「繋がる学校図書館－支援と連携の輪を広げよう－」
カ 講師	宮城県松山高等学校 主任主査(学校司書) 大場 真紀

(4) 基本研修

ア 開催日	10/15(木)
イ 場所	県立図書館
ウ 対象	市町村立図書館、公民館図書室等の職員及び学校図書館の業務を担当する職員等
エ 参加者	市町村立図書館等職員 25 名、学校図書館業務担当職員 7 名、その他 3 名
オ 内容	テーマ「「レファレンスインタビュー ～“おもてなし”の第一歩～」
カ 講師	福島県白河市立図書館 主幹兼副館長 中沢 孝之

(5) ステップアップ研修

ア 開催日	12/9(水)
イ 場所	県総合社会教育センター
ウ 対象	市町村立図書館・公民館図書室等の職員及び学校図書館の業務を担当する職員等
エ 参加者	市町村立図書館等職員 28 名、学校図書館業務担当職員 3 名、その他 2 名
オ 内容	テーマ「w i t h コロナ時代の図書館運営を考える」 ※W e bによるオンライン講義
カ 講師	(公社)日本図書館協会 常務理事兼事務局次長 鈴木 隆

[成果と課題]

担当者会議及び初任者研修は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から資料配付のみの実施となったが、県立図書館が実施している市町村立図書館等への支援事業の活用及び図書館の理念やサービスについての理解を促進し、各館での円滑な日常業務の遂行に寄与した。

学校図書館支援研修では、新学習指導要領が順次実施されることに伴って学校図書館の機能充実がさらに求められることから、学校図書館と公共図書館等の連携を図る契機とすることにより、学校図書館の利用促進と市町村立図書館等のサービス充実に繋がった。

基本研修では、図書館職員の資質向上のために特に重要なテーマを取り上げて実施していくことで、図書館職員に必要である継続的な研修受講の機会を設定することができた。

ステップアップ研修では、社会の変化に応じた新たな課題等に対応するテーマを取り上げ、新型コロナウイルス感染症拡大防止に配慮し、W e bによるオンラインで実施することができた。

W e bによるオンライン研修の実施に当たっては、受講者によって通信等の環境が異なること、グループワークの持ち方や運営側の I Tスキル向上などが課題である。